

横須賀市
博物館報



- 目 次 -

はじめに

博物館事業報告

1 特別展示・企画展示	3
(1) 特別展示	3
(2) 企画展示	10
2 研究発表会	22
3 調査等出張	24
4 ニュース	34
5 アンケート	34

博物館事業概要 令和4年度(2022年4月～2023年3月)

6 展示教育普及事業	
(1) 主催事業①(展示)	41
(2) 主催事業②(学習会)	44
(3) 主催事業③(イベント等その他)	47
(4) 主催事業④(出版・制作)	49
(5) 共催・協力事業	50
(6) 学校教育等指導・対応	54
(7) 学校教育以外の指導・対応	55
(8) 報道発表・取材等協力	58
7 収集調査研究事業	
(1) 調査・研究	60
(2) 研究発表・執筆	61
(3) 学術研究団体・会議等協力	62
8 分類整理保存事業	
(1) 資料の寄贈・借用	63
(2) 登録資料	63
(3) 資料の利用	64
(4) 資料の保守・保存環境保全	65
9 管理事業	
(1) 施設利用	66
(2) 開館園日数・入館園者数	68
(3) 人 事	68
(4) 予 算	68
(5) 営繕工事	68
(6) 消防訓練・避難訓練	68
(7) ホームページ・メールマガジン・SNS	68
職員名簿(令和4年度)・表紙写真解説	裏表紙裏

はじめに

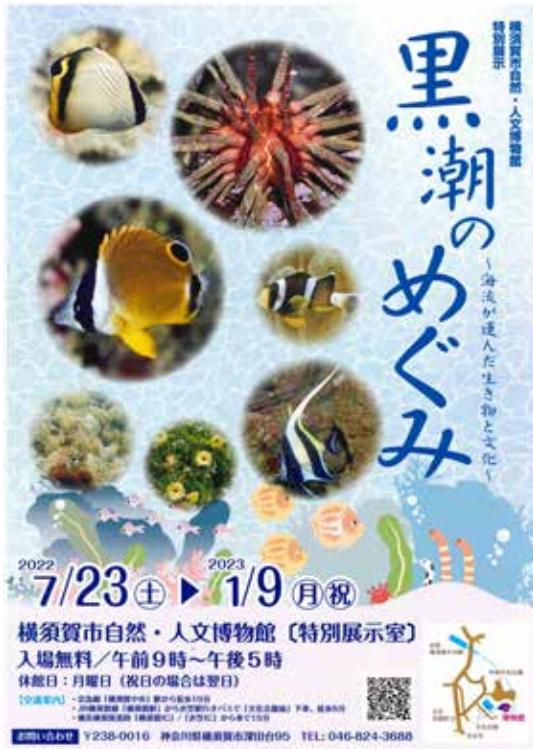
令和4年度も前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響が続く中、9月には政府が若年層の重症者リスクの低減を受けて「With コロナ」の政策を発表し、博物館活動も正常化への方向に進み始めました。

令和4年度の特別展示「黒潮のめぐみ—海流が運んだ生き物と文化—」を7月に当初の予定通り開催し、黒潮によって横須賀の海に現れた黒潮由来の生き物や、黒潮の生き物のふるさとである琉球列島、紀伊半島南部などの生き物の調査の成果などを紹介し、展示は好評につき会期を2週間延長しました。また、令和5年3月からは、テレビドラマで全国的に注目された「日本の植物分類学の父」と称される牧野富太郎博士に焦点を当てた企画展示を開催し、牧野博士に関連する植物標本や牧野博士に師事した当博物館の初代植物学学芸員である大谷茂との交流を裏付ける牧野博士直筆の書簡などを多数展示し、6月までの会期の間、多くの市民に来場いただきました。一方、自然館1階の展示室では、それまで主として蛍光灯を使用していた展示ケース及び天井照明のLED化の工事を完了し、以前より明るい館内の提供と省エネルギー化を推進することが出来ました。

コロナ禍で減少していた来館者数は、本館については、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度より増加し、附属施設も合わせた来館園者数は令和元年度の3/4まで回復しました。まだまだ新型コロナウイルスと向き合う日々が続くと予想されますが、当館は皆様に三浦半島の自然と歴史をわかりやすく伝えられるよう一層努めてまいります。引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

横須賀市自然・人文博物館

《ポスター》



特別展示
「黒潮のめぐみ—海流が運んだ生き物と文化—」



企画展示①
「新着資料展 2022—近年収蔵の近現代史料から—」



企画展示②
「牧野富太郎がみつめた植物 —植物標本が語るもの—」



みんなの理科フェスティバル

博物館事業報告

1 特別展示・企画展示

(1) 特別展示

「黒潮のめぐみ—海流が運んだ生き物と文化—」

令和 4 年 7 月現在、5 年という観測記録史上最長の期間となる黒潮の大蛇行が続く中、これまで横須賀市の沿岸に黒潮によってもたらされた、さまざまな生物や漁業、信仰などの文化及び現在の横須賀市沿岸の環境の現状について紹介する展示を行った。

担当：萩原・瀬川

開催場所

本館特別展示室

開催期間

7 月 23 日(土)～5 年 1 月 21 日(日) (1 月 9 日(日)まで開催期間を延長) [183 日間]

見学者数

30,234 人

関連事業

- ・展示解説 7 月 23 日(土), 8 月 27 日(土), 12 月 24 日(土)
- ・講演会(自然環境講演会として開催) 1 月 21 日(日)
- ・展示解説書「黒潮のめぐみ—海流が運んだ生き物と文化—」
- ・オリジナルグッズの販売「ハンカチ」1 種, 「缶バッジ」2 種

展示内容

展示資料, 展示物, 解説パネル全文を以下に掲載する。

「入口ゲート」

- ・入口ゲート 木工造作, 壁面装飾(黒潮に由来する生物や漁業の写真張り)

「ごあいさつ」

- ・パネル 1 枚(以下全文)

ごあいさつ

黒潮は、地球規模の大きな海の流れ「海流」のひとつで、世界でも最大規模かつ最速の海流ともいわれています。この海の流れは、古くから三浦半島の自然や人々の暮らしに大きなめぐみをもたらしてきました。海流は大きく、暖かな流れである「暖流」と、冷たい流れである「寒

流」に分かれますが、この海流の温度は沿岸の気候に大きく影響し、暖流である黒潮は三浦半島に温暖な気候をもたらし、照葉樹の森や豊かな海岸植生をはぐくんでいます。また、黒潮の速い流れは、三浦半島の近海に南の海から多くの水産資源や、三浦半島の海洋生物相を特徴付けている「無効分散(死滅回遊)」する生物などを運び、海流によって生じる海水の乱流は、栄養豊かな深海の海水を巻き上げ、良好な漁場の形成を助けています。さらに、黒潮は人や文化の伝来にも貢献していて、紀伊半島に端を発する「あま(海士・海女)」文化を三浦半島にもたらしました。今回の特別展示は、黒潮の流れのしくみ、黒潮やその影響のもとにくらす生物、黒潮によって三浦半島にやってきた文化や暮らしなど、黒潮をテーマに、自然科学分野と民俗学分野との両視点での展示を試みました。海に囲まれた三浦半島の自然や文化のルーツに興味をもっていただくきっかけになれば幸いです。

1 黒潮とは

- 1-1 「黒潮ってなに?・海流ってなに?」
- ・パネル 1 枚(以下全文)



入口ゲート

・黒潮ってなに？

黒潮は前述のように、北太平洋を大きく循環する北太平洋海流の一部で、日本近海を流れる南方からの暖かな水の海流「暖流」です。別名「日本海流」とも呼ばれ、その流れの速さは秒速2mに達し、世界で最も速い海流と言われています。黒潮の源は北赤道海流で、これがフィリピン沖で北上し、琉球列島西側の東シナ海から東に向かって進路を変え、屋久島の南側を通過して四国・本州の太平洋岸へと流れます。紀伊半島沖から関東地方沖にかけての黒潮は、その流れの方向に「冷水塊」という冷たい海水が発生すると、これを避けるように南側へ蛇行をします。海上保安庁では、この蛇行の仕方によって黒潮の流れのパターンをN,A,B,C,Dの5つの型に分けています。やがて黒潮は本州の東の方向に離れて行き、北太平洋海流の東に向かう流れへと変わり、大小の渦流などを形成しながら分散して、流心が不明瞭なゆるやかな流れに変化します。また、関東地方を通過した黒潮の一部は、伊豆諸島の東側の沖合を南下して、小笠原諸島の南を西へと向かう「黒潮逆流」へと変化し、琉球列島に達すると北上して再び黒潮に合流することが知られています。

・海流ってなに？

海流は、地球の熱循環（大気循環）にともなって発生する「貿易風」と呼ばれる恒常的な空気の流れと、地球が自転することで生じる「コリオリの力」によってつくられる海水の流れで、潮汐運動によって引き起こされる潮流と異なり、日周期的なサイクルでの流れの向きや速さの変化はありません。コリオリの力は回転体の表面に発生する見かけ上の力で、緯度の小さい地域（赤道付近）で大きく、緯度の大きい地域（極地付近）で小さくなる性質をもっていて、地球上では流体が北半球で右まわり、

南半球では左まわりに運動の方向が曲げられます。

1-2 北赤道海流と黒潮

・タペストリー 1枚

北太平洋の海流（暖流・寒流）と黒潮の関係を模式図で紹介。

1-3 日本近海の黒潮とその蛇行

・タペストリー 1枚

日本近海の黒潮の流路と蛇行のパターンを模式図で紹介。

2 黒潮の生き物とそのふるさと

2-1 黒潮の生き物のふるさと（琉球列島・紀伊半島南部）

・コーナータイトルパネル 1枚

・床張りシート写真（サンゴ礁の水中景観写真）1枚

・「サンゴの海」解説・水中写真パネル 2枚（以下、全文）

透明度の高い黒潮の影響をうけて発達した、サンゴの海にくらす生き物たちは、「熱帯魚」と呼ばれるような魚たちを代表に、色あざやかで多種多様な生き物が見られます。サンゴの海やその周辺の暖かな海で繁殖した生き物の一部は、卵やこども（幼生や仔魚）のうちに黒潮にのって運ばれます。三浦半島の海では夏から秋にかけて、こうして黒潮にのって流されてきた、暖かな海の生き物のこどもたちをたくさん目にします。サンゴの海は三浦半島で見られる黒潮の生き物たちの「ふるさと」なのです。

・「奄美大島の魚市場の魚」（スライドショー）デジタルフォトフレーム 1台

（以下、解説全文と掲載種）



1-1. 「黒潮ってなに？・海流ってなに？」タペストリー



2. 黒潮の生き物とそのふるさと

黒潮の魚のふるさとであり、世界自然遺産の島奄美大島南部の古仁屋（こにや）魚市場に水揚げされた魚を紹介し、南の島の魚市場では、水族館や観賞魚店で見られるような色あざやかな魚や、大きなアジやハタのなかまなどがならび、横須賀の魚市場とはようすが大きく違っていました。こうした魚の種類の違いは、食文化の違いにつながっています。

アカハタ、アオノメハタ、スジアラ、ホウセキキントキ、カスマアジ、イトヒキアジ、カンパチ、ヒレナガカンパチ、ギンガメアジ、シマアジ、キビレアカレンコ、ホシレンコ、ハマフエフキ、ハナフエダイ、オジサン、タカサゴヒメジ、クサビベラ、ナンヨウブダイ、ナガブダイ、ニシキブダイ、スマ

・サンゴ類骨格標本 9 点

クシエダミドリイシ、オヤユビミドリイシ、ハイミドリイシ、アナコモンサンゴ、ノウサンゴ、ツツヘラハナサンゴ、トゲサンゴ、マルクサビライシ、ヤスリハマサンゴ

・サンゴ礁性魚類の剥製標本 5 点

ナメモンガラ、スジナメモンガラ、ニセカンランハギ、ハナフエダイ、アカハタ

2-2 黒潮が運んだ動物（南の海からやってきた生き物）

・コーナータイトルパネル 1 枚

・床張りシート（横須賀の潮だまり）1 枚

・「三浦半島の海の中」解説・景観写真パネル 2 枚（以下、全文）

黒潮が日本列島から離れていく直前の三浦半島周辺の海は、たくさんの黒潮の生き物の分布の北限となっています。また、三浦半島の海に黒潮に運ばれてやってきて、夏にあらわれ、冬に寒さで死んでしまう「無効分散」「季節

節来遊」「死滅回遊」などと呼ばれる生活型の生き物が多いのも特徴の一つです。これらは一見すると、とても無駄な旅をしているように見えますが、地球温暖化などのように三浦半島の気候が暖かく変化したときには、他の種類より先に自分たちの繁栄できる場所を確保する、という生き物たちの繁殖戦略があると考えられています。

・「黒潮が運んだ生き物 1（軟体動物・魚類）」（スライドショー）デジタルフォトフレーム 1 台

（以下、掲載種）

ニシキヒザラガイ、イボタマキビ、ホソテンロクケボリ、ベニキヌツツミ、ウスカワイトカケ、ニシキツバメガイ、ゼニガタフシエラガイ、ミカドウミウシ、チゴミドリガイ、コノハミドリガイ、センヒメウミウシ、クモガタウミウシ、リュウモンイロウミウシ、サラサウミウシ、キャラメルウミウシ、アコヤガイ、ヒョウモンダコ、オオモンハタ、クロホシイシモチ、ロウニンアジ、マルコバン、フタスジヒメジ、ホンソメワケベラ、イナズマベラ、チョウハン

・「黒潮が運んだ生き物 2（刺胞動物・甲殻類・棘皮動物）」（スライドショー）デジタルフォトフレーム 1 台（以下、掲載種）

ムラサキハナギンチャク、ヒメハナギンチャク、ジュウジキサンゴ、エダムチヤギ、ドロフジツボ、サラサエビ、イソギンチャクエビ、ウミシダヤドリエビ、オトヒメエビ、ヒメセミエビ、コブヨコバサミ、イソカニダマシ、イソクズガニ、タイワンガザミ、ヒメキンチャクガニ、オキナガレガニ、ベンケイガニ、ミナミスナガニ、ニッポンウミシダ、ヤツデスナヒトデ、チビイトマキヒトデ、ヤツデヒトデ、ノコギリウニ、ガンガゼ、アカオニガゼ、タワシウニ、ヒラタブンブク、ニセクロナマコ、クロホ



2-1. スライドショー

「黒潮の魚のふるさと奄美大島の魚市場の魚」



2-2. ビデオ

「天神島のタイドプールを定点カメラでのぞいてみよう！」

シアカナマコ

・「天神島のタイドプールを定点カメラでのぞいてみよう」(ビデオ) デジタルフォトフレーム 1台
(以下、解説及び掲載種)

この映像は2021年8月25日に博物館附属・天神島臨海自然教育園のタイドプールで撮影した映像です。多くの死滅回遊魚(季節来遊漁)をはじめとした、さまざまな魚がタイドプールを利用するようすが記録されています。

コバンヒメジ、オキフエダイ、シマイサキ、トゲチョウチョウウオ、フライチョウチョウウオ、オヤビッチャ、シマスズメダイ、カエルウオ、クモハゼ、アイゴ
・黒潮の影響を受けて三浦半島に出現する魚類の剥製標本9点、軟体動物標本6点

マツダイ、ハタタテダイ、アミチョウチョウウオ、オヤビッチャ、イラ、アイゴ、ニザダイ、ギマ、アミモンガラ、ボウシュウボラ、ベッコウイモ、ホシダカラ、ヤクシマダカラ、ヒオウギ、ヒョウモンダコ。

2-3 黒潮が運んだ漂着物(海岸に流れつく種子・果実・遺骸・岩石など)

・タイトルパネル1枚
・床張りシート(ハマゴウの花)1枚
・「黒潮が運んだ漂着物と漂着した種子から発芽するハマオモト」解説・景観写真パネル2枚
(以下、全文)

黒潮に運ばれてくるのは海中の生き物だけではなく、海岸や水辺に生育する植物の果実や種子、貝殻などの生き物の遺骸、火山活動で発生した軽石などの自然物のほか、人が捨てたゴミまで、黒潮によって三浦半島の海岸に運ばれてきます。横須賀市の花に指定されてい

るハマオモト(ハマユウ)はその代表的な植物で、ハイビスカスのなかまのハマボウも黒潮によって流されてきた種子が成長し、三浦半島に定着したものと考えられています。また、流れ着いても三浦半島では定着はしていない、モダマ、ゴバンノアシ、ソテツなどの種子や果実、ときにはココナッツとして知られるココヤシの果実なども熱帯・亜熱帯の海から流れ着くこともあります。

・「黒潮が運んだ漂着物(植物・刺胞動物・オウムガイ)」(スライドショー) デジタルフォトフレーム1台
(以下、掲載種)

ハマボウ、ハマゴウ、ゲンバイヒルガオ、ソテツ、ココヤシ、ゴバンノアシ、モダマのなかま、カツオノエボシ、ギンカクラゲ、カツオノカンムリ、キクメイシモドキ、ニホンアワサンゴ、オウムガイ

・三浦半島の海岸で見つかる黒潮由来の漂着物の標本9点

カツオノエボシ、キクメイシモドキの骨格、ニホンアワサンゴの標本、オウムガイの貝殻、スカシカシパン、ココヤシの果実、ゴバンノアシの果実、モダマの果実と種子、ハマオモトの種子。

3 黒潮の魚・レプリカ水族館

・実物大魚類レプリカ(精密模型)5点
シイラ、キハダ、ヒラソウダ、サワラ、マンボウ
・マンボウといっしょに記念写真を撮ろう(記念写真コーナー)

4 黒潮が運んだ民俗・文化

・タイトルパネル1枚
4-1 漁業・農業
・解説及び巻き網漁模式図パネル1枚(以下、全文)



2-3. スライドショー
「黒潮が運んだ漂着物」



3. 黒潮の魚・レプリカ水族館

「イワシは海のお米だ」と佐島の漁師さんが言っているのを聞いたことがあります。イワシは、人間にとっても他の魚にとっても大事な食糧だという意味です。ただし、人間はイワシを直接食べるだけでなく、干鰯やメ粕などの肥料としたりカツオなどを釣る時の撒き餌にしたり、多くの利用法を編み出しました。江戸時代中頃、近畿地方での綿栽培の増加により、干鰯やメ粕の需要が高まりました。近畿地方だけではその需要に応えられなくなり、多くの漁師たちが他地域に出漁していきました。そのひとつに、黒潮に乗って東へとやってきた一団がありました。彼らは、マカセ網という巻網の技術を持ち、沿岸のイワシを大量に捕り干鰯にして、近畿地方の需要に応えたのです。当初は出稼ぎ漁でしたが、次第に彼らは三浦半島に定着していきます。一方、カツオ一本釣りの撒き餌にするイワシも巻き網で捕り、直径1.3m深さ1.5mほどの生簀に入れられます。イワシの多くは生簀のなかをうまく泳げず体を傷つけてしまい死んでしまいます。しかし、うまく泳ぐことができるイワシもあり、そのイワシは船の生簀でも生きられるため、撒き餌となることができます。現在でも、近畿地方や四国からカツオ漁の撒き餌を求めてカツオ一本釣船がやってくるなど、黒潮がもたらす文化や交流は続いているのです。

・民俗資料（漁労用具）7点

チゲ（道具箱）、モグリ板（釣り具）、シイラの皮（疑似餌材料）、疑似餌針（カツオ漁用）、釣り竿（カツオの一本釣り用）、オオノミ（貝類採集用具）、水中めがね、大漁旗2点。

・民俗資料（農産物ほか）

綿花、干鰯（イワシを乾燥させた肥料・レプリカ）

・カツオ（剥製標本）1点、マイワシ（レプリカ）1点



4. 黒潮が運んだ民俗・文化

4-2 文化

・解説及びへらへら団子写真パネル1枚（以下、全文）

三浦半島には、マカセ衆の墓があるほか、近畿地方由来の文化が今の生活に根付いています。例えば、横須賀市佐島のへらへら団子は、小麦粉や米粉で作った団子に餡子を和えたものです。夏の土用にあんころ餅を食べる風習は、近畿地方に多く見られ、土用餅などとも呼ばれます。餅か団子かという違いはありますが、土用に「精をつける」「風邪を引かない」などの理由で餡子を食べる点は共通しています。また、同じく佐島に伝わる御船歌のなかには、「さまがふね」「きしゅうきのたに」「いせのながと」など近畿地方の地名が出てくる歌がいくつもあります。さらに、子どもの遊びからも黒潮の影響を感じられます。三浦半島各地で見られた「蜘蛛のケンカ」は、地域によって蜘蛛の種類や遊び方に違いがありますが、蜘蛛を1対1で闘わせるもので、九州から房総半島にみられる子どもの遊びです。このような黒潮流域に共通する事項をまとめて黒潮文化と呼びます。明確な定義や古文書の記述があるわけではありませんし、伝播の過程でその地域にあわせた変化をしているものですが、人々の暮らしの中にこそ感じることができる文化なのです。

5 変わりゆく横須賀の海中世界

・タイトルパネル1枚

・「変わりゆく三浦半島の海」解説パネル1枚（以下、全文）

2010年より前の三浦半島相模湾岸の海には、海草のアマモやタチアマモが形成する「アマモ場」やアラメやカジメなどの大型海藻からなる「海中林」が各所で見られ、そこには固有の生態系が築かれていました。2010年以降になるとアマモ場や海中林が姿を消しはじめ、ア



5. 変わりゆく横須賀の海中世界

マモ場のクダヤガラやヨウジウオ、海中林のスイやウミタナゴ類など、そこにくらしていた生き物も数を減らしています。アマモ場や海中林がなくなった原因として、暖かな海域にくらす草食性のアイゴやムラサキウニが増えたことによる海草・海藻への食害や、海水温の上昇による海草や海藻の発育不良、下水処理技術の発達による海水の貧栄養化、大気中の二酸化炭素の増加による海水の酸性化などがあげられています。

- ・2010年以前と現在の海中景観の比較写真7点
- ・「黒潮と三浦半島周辺の海水温の上昇」解説パネル1枚（以下、全文）

古くから黒潮の蛇行と三浦半島周辺海域の水温の変化が密接に関係していることが知られていました。そのため、海域の水温の上昇が、黒潮の影響の増大によるものか、それとも地球温暖化の影響によるものなのか、判断は難しいものでした。しかし現在では、全世界的に海水温の上昇が見られること、過去数十年の統計的な情報の集積により海域の水温の上昇傾向が明らかであること、黒潮の流路に関わらず海域の水温に上昇傾向が見られることなどから、三浦半島周辺海域も地球温暖化の影響によって水温が上昇しつつあるというのが定説となっています。海水温の上昇は、三浦半島を熱帯・亜熱帯生まれの生き物にとってくらしやすい環境に変え、毎年のように分布を更新する種類が見つかっています。その反面、冷たい水を好む生き物たちは数を減らしています。こうした変化に注目し、未来の環境がどのように変化してい

くのか、その対策はどのようにするべきか、私たちは考えていく必要があります。

- ・環境の変化にともなって減少した生き物・増加した生物の標本・写真

減少：クダヤガラ（標本）、スイ（写真）。

増加：マルコバン（標本）、オニカマス（標本）、アイゴ（標本）、ムラサキウニ（写真）

6 ミニシアター「黒潮の生き物のふるさと」

- ・タイトルパネル1枚
- ・上映機器 50インチ液晶モニター1台、メディアプレーヤー1台
- ・映像コンテンツ 上映時間10分38秒 Mpeg4形式ビデオの自動再生
- ・内容 下記を黒潮の流程に沿って紹介
 - ①三浦半島と共通する琉球列島の生き物（奄美大島の水中映像）
 - ②三浦半島と共通する紀伊半島南部の生き物（紀伊半島・潮岬の水中映像）
 - ③黒潮に運ばれてきた三浦半島の生き物（横須賀市天神島の水中映像）

7 横須賀市自然・人文博物館の黒潮流域研究の成果（発表論文・図書及び標本の一部を紹介）

- ・新種記載 ミナミウバウオ、ヒメアオギハゼ、エリホシベニハゼ



変化した海中景観



近年、増加した生物・減少した生物

- ・日本初記録種（標準和名の提唱） コガシラエビス、アツヒメサンゴカサゴ、ヨコヤマハナスズキ、ホムラハゼ、ホコサキキラハゼ、モンロユカタハゼ
- ・分布域の更新（新しい産地の発見） ジャノメヌノサラシ（奄美大島）、シキナミヤツトゲテンジクダイ（紀伊半島）
- ・他の研究機関との連携（プロジェクト研究）

生物多様性ホットスポットの研究（国立科学博物館主催，鹿児島大学，神奈川県立生命の星地球博物館，横須賀市自然・人文博物館の共同研究事業）成果品「奄美群島の魚類図鑑」

協力者及び協力団体

この特別展示の開催にあたって，下記の方々（個人・団体等）に多大なご協力をいただきました．ここに記して感謝の意を表します．

- ・協力者（五十音順・敬称略）

柿崎美卯，鹿児島大学総合研究博物館，神奈川県立生命の星・地球博物館，観音崎自然博物館，国立科学博物館，小長谷美沙，相模湾海洋生物研究会，鈴木宏和（故），瀬能 宏，中村 薫，林 公義，村石健一，山田和彦，米澤美津希



6. ミニシアター「黒潮の生き物のふるさと」



7. 横須賀市自然・人文博物館の黒潮流域研究の成果論文と関連標本（パラタイプ標本，日本初記録標本など）



博物館の黒潮研究の成果の一部

2006年に新種として発表されたヒメアオギハゼのパラタイプ YCM-P39240（左）と
2018年に日本初記録として発表されたコガシラエビス YCM-P36349（右）
ともに奄美群島産標本

(2) 企画展示①

「新着資料展 2022—近年収蔵の近現代史料から—」

博物館では、多くの資料を大切に収蔵しているものの、これら貴重な資料も展覧会のテーマに合わない限り実物展示の機会に恵まれることはない。そこで、今回の企画展示では、資料の展示機会の拡大を主眼として、展覧会全体のテーマを設定せず、多くの貴重な資料を幅広く紹介する企画とした。

担当：菊地・瀬川・藤井

開催場所

本館特別展示室

開催期間

4月1日（金）（前年度より継続）～6月19日（日）
[当年度 69 日間]

見学者数

14,200 人

関連事業

展示解説 4年5月1日（日）



展示解説

展示内容

詳細は館報第 69 号参照

関連事業

展示解説 5月1日（日）

(3) 企画展示②

「牧野富太郎がみつめた植物—植物標本が語るもの—」

日本を代表する植物学者・牧野富太郎は、「植物分類学の父」といわれ、多くの植物を記載してきた。横須賀をはじめ三浦半島内でも多くの新種を発見し、命名している。本展示では、東京都立大学牧野標本館協力のもと、牧野富太郎の標本を紹介するとともに植物標本の魅力や価値にせまるものとした。

担当：山本

開催場所

本館特別展示室

関連事業

展示解説 5年3月18日（土）

開催期間

5年3月18日（土）～3月31日（金） [当年度 12 日間]
（令和 5 年度へ継続）

展示内容

以下、展示区画毎に解説パネル内容と展示資料内訳を掲載

見学者数

2,580 人

展示区画①：【導入】

入口ゲートとして、展示室シャッターの半面にタイトルパネル装飾を施した。導入として、シャッター裏側に

壁面表示とフォトブースを設置した。

・写真パネル

牧野富太郎博士画像（明治33年頃）高知県立牧野植物園蔵（A1-0035）

・あいさつパネル「はじめに」（以下全文）

日本を代表する植物学者・牧野富太郎博士（1862～1957）は、「日本の植物分類学の父」といわれ、多くの植物について新種記載してきました。博士は、三浦半島はじめ神奈川県内において広く植物を収集・調査した記録があります。

また、牧野博士は全国の植物愛好家との交流と指導を積極的に行っていました。当館の初代植物担当学芸員である大谷茂もその一人です。当館には、大谷茂元学芸員のご遺族から寄贈いただいた、牧野博士からの手紙や原稿が収蔵されています。

若き牧野博士が植物学を志していた明治時代初期、横須賀製鉄所の医師サヴァティエは日本の植物研究を精力的に行い、『日本植物目録』を出版する等、多くの功績を残しました。植物研究の歴史がある横須賀の地において、あらためて植物標本の意義や美しさに迫ります。
横須賀市自然・人文博物館

・壁面展示「楮鞭一撻」（以下全文）

1 忍耐を要す

（何事にも忍耐が必要であるが、植物研究には欠くことができない）

2 精密を要す

（いい加減に済まらず、細かい点にまで注意を及ぼすべきである）

3 草木の博覧を要す

（植物について偏らず観察して知るべきである）

4 書籍の博覧を要す

（書籍についても偏らず読み知るべきである）

5 植学に関する学科は皆学ぶを要す

（植物に関する学問は、他分野であってもすべて学ぶべきである）

6 洋書を講ずるを要す

（和漢書の他に洋書も読み理解し後世に我々が世界の最先端であるべく努めるべきである）

7 当に画図を引くを学ぶべし

（植物を表す最も適した図が自分で描けるよう努力すべきである）

8 宜く師を要すべし

（疑問が生じた場合は、年齢や立場の上下を越えて教えを請うべきである）

9 吝財者は植学者たるを得ず

（財を惜しむ者には植物学者である資格はない）

10 跋涉の労を厭う勿れ

（方々を歩き回ることを嫌がってはならない）

11 植物園を有するを要す

（自分の植物園を持ち、そこで植物を培養してよく観察すべきである）

12 博く交を同志に結ぶ可し

（ひろく同志と交流を持ち、知識を広げるべきである）

13 邇言を察するを要す

（植物の呼び名や薬効などは、例え専門家の言葉でなくてもかならず記録すべきであり、ちょっとした何でもない言葉を馬鹿にしてはいけぬ）

14 書を家とせずして友とすべし

（書物に書いてあることが全てを鵜呑みにしてはいけぬ。誤りがある場合は正すべきであり、書物を先生ではなく友人とすべきである）

15 造物主あるを信ずる母れ

（真理の追究の妨げになるので、万物を創造した者の存在を信じていけない）

「楮鞭一撻」は、明治14～15(1881～82)年頃、佐川(高



会場入口



壁面展示「楮鞭一撻」

知県)にて牧野博士が植物学を志すための心得を書き記したもので、青年時代の博士の強い思いがうかがえます。出典：『日本植物学の父・牧野富太郎』佐川町立青山文庫(2012年12月15日発行)

展示区画②：【牧野博士が生まれる前の日本の植物学】

- ・年表パネル1点
- ・植物標本画像2点
- ・図書資料6点
- ・解説パネル「神奈川県植物調査の歴史」(以下全文)
江戸時代(開国以前)に日本を訪問し、日本産の植物を採集した人物としては、ケンペル(1691年と1692年に江戸参府)、ツンベルク(1776年に江戸参府)、シーボルト(1823年、1859年に来日)がよく知られています。ケンペルが採集した標本は、日本で採集された最古の植物標本です。箱根で採集されたハコネシダ(ハコネグサ)はよく知られ、英国のロンドン自然史博物館(BM)に所蔵されています。ツンベルクはリンネの弟子で、帰国後『日本植物誌』を著しました。ここでは箱根で採集した標本を元に多くの植物が記載されています。シーボルトが採集した標本(関係した人の採集品も含む)の多くは、ツッカーニーとともに研究されました。

江戸時代末期から明治時代初期における植物調査では、浦賀に来航したペリー艦隊の乗務員や、植物研究を目的に箱館に来日したロシアのマキシモヴィッチ(1860年)、横須賀製鉄所の医師として来日したフランスのサヴァティエ(1866年、1873年)らの成果が知られています。ペリー艦隊の乗務員は横須賀や横浜のほか、伊豆下田や函館などでも採集し、その標本は、ハーバード大学のエイサー・グレイが研究しました。マキシモヴィッチは、岩手県出身の須川長之助を伴い、函館や横浜で採集しました。サヴァティエは勤務の合間に、横須賀や横浜、鎌倉、箱根などで植物を採集しました。これらの標本に基づいて、多くの新種が記載されました。

展示区画③：【植物学に興味を抱きはじめて頃の牧野博士】

- ・年表パネル1点
- ・植物標本画像2点
- ・解説パネル「牧野博士の生い立ち」(全文)
牧野博士は、文久2(1862)年4月24日、高知県佐川町の造り酒屋「岸屋」の跡取り息子として生まれました。この岸屋一族は代々町役をつとめる旧家の1つであり、分家もありました。

植物研究への思いが高じて、より多くの専門書籍や顕微鏡などの道具が欲した牧野博士は、東京上野公園

で開催中の第二回内国勸業博覧会の見物も兼ねて明治14(1881)年4月に佐川を発ち上京します。

東京では博物館を訪問し、博物学者の田中芳男や小野職愨(小野蘭山の玄孫)らと面会します。そこで紹介された植木屋で珍しい植物を購入したほか、植物研究に関連する道具や資料を手に入れます。上京のついでに足をのびした日光(栃木県)や佐川―東京間の道中でも植物採集にいそしみ、研究への思いを確固たるものにしていきます。

この上京でさらに刺激をうけた博士は、「大いに土佐の国で採集せねばいかん」(『牧野富太郎自叙伝』より)と思いたち、様々な植物を採集しています。

展示区画④：【牧野博士の植物研究】

- ・年表パネル44点
- ・写真パネル5点
- ・植物標本4点
- ・植物標本画像4点
- ・図書資料2点
- ・解説パネル「牧野博士の受難」(以下全文)

牧野博士は、明治17(1884)年4月に2度目の上京を果たし、東京大学理学部植物学教室に出入りをするようになります。この頃は東京と高知を往来していたようです。

博士は『日本植物志図篇』を刊行し、植物学教室の松村任三助教授やロシアのマキシモヴィッチに評価されます。しかし、明治23(1890)年、矢田部良吉教授により植物学教室の出入りを禁止されました。これを受けた博士はマキシモヴィッチを頼ってロシアへ赴こうとしましたが、マキシモヴィッチの急死により断念することとなります。その後は、帝国大学(東京大学)に設置された



展示室内の様子

ばかりの農科大学に身を置き研究を続けることとなりました。

この頃、博士は自身の研究に財を惜しまなかったこともあり、生家岸屋の財力が衰えをみせはじめます。明治24(1891)年には財産整理のため一旦帰郷することとなります。帰郷中、松村仁三教授から牧野博士の元に連絡があり、はれて東京帝国大学(東京大学)の助手となります。ただし、職はあったもののその後も借金がふくらんでしまいました。

窮地を見かねた土方寧(佐川出身の東京帝国大学法学部の教授)が大学総長に博士の給料を上げるよう話をもちかけてくれます。とはいえ、これだけでは借金の清算は難しく、土方教授や田中光顕子爵(後に伯爵)らの斡旋で三菱を創業した岩崎家(土佐出身)の援助をうけ、やっと清算できたといえます。

その後、明治33(1900)年には『大日本植物志』が刊行されました。しかし、明治43(1910)年、松村教授らとの関係がこじれ博士は助手を罷免されてしまいます。

・「牧野博士の研究人生」(以下全文)

博士が助手を罷免されたことに対して、博士の実力をよく知る人々たちが反対運動をおこし、明治45(1912)

年に今度は講師として大学に復帰します。1年契約で行った講義の数によって給料が決まる、臨時に雇用される立場ではありますが、博士はその後27年間も講師として大学に留まることとなります。

大正5(1916)年には『植物研究雑誌』を創刊するなど、研究活動に邁進し、業績を残していきます。その一方で、再び借金がふくれあがってしまいます。自身の経済状況を新聞に公表し、池長孟に援助を受けることとなりました。この時、池長は借金を清算しただけではなく、借金をしなくても生活できるよう、月々の援助も申し出たといえます。

大学に籍を置いていたとはいえ、ほぼ独学で植物研究を成し遂げていった牧野博士には、周囲の学閥主義に対して一種の意地のようなものがあつたようです。最終学歴が小学校中退であることで様々な不利益を蒙りながらも、友人らの勧めに応じて学位を請求しようとはしませんでした。自叙伝には「私はむしろ学位のある人と同じ仕事をしながら、これと対抗して相撲をとるところこそ愉快はあるのだと思っている」とも書いています。実際に、博士が「理学博士」の学位をもらったのは、昭和2(1927)年4月のことでした。

この学位授与についても、友人たちが代わる代わる博



牧野富太郎収集標本



牧野富太郎収集標本(横須賀産)

士を説得した末にやっと学位請求論文を提出したとのことであり、この逸話からも博士の意地をかいま見ることができます。

・「神奈川県植物調査と牧野博士」(以下全文)

神奈川県は、もっともその植物相が把握されている都道府県の一つと言われます。その基礎には、先に紹介したとおり、鎖国中の江戸時代にも長崎の出島に滞在した外国人が江戸参府の途中で標本を採集したこと、開国後、植物採集を目的に訪日した外国人が「横浜」などを拠点に活動したこと、明治以降の交通の便の悪い中、首都東京に近い比較的自然豊かな地として、牧野博士をはじめとした日本の植物学者が採集に訪れたことなどがあります。

牧野博士は、自らが採集するだけでなく、地方の植物愛好家たちへ植物学の知識の普及にも尽力しました。日本で初めてつくられた植物愛好会である「横浜植物会」にも博士は熱心に指導しました。牧野博士は、横浜植物会の創設者・松野重太郎が発見したヨコハマダケを命名したほか、県内の愛好家とともに植物調査を行いました。また、松野重太郎が編集した昭和8(1933)年刊行の『神奈川県植物目録』の序文は、博士が執筆しています。

神奈川における植物研究は多くの人に引き継がれ、その後の神奈川県植物誌調査会発足ならびに『神奈川県植物誌』の刊行に繋がっていきます。「植物誌」とは、植物の戸籍簿ともいわれ、ある地域(地理的空間)に生育する植物の構成(=植物相)について、記録を元にまとめた本です。植物誌の元となる記録は、記憶、文字、写真、標本などがありますが、中でも標本は、後世の人が確認できる(=再検証可能な)証拠として最も信頼性の高い記録の形です。最新版は『神奈川県植物誌2018』



展示書籍

で、神奈川県内の全ての植物について、標本に基づく分布図、形態の記述や検索表、植物を見分けるための図などがあり、図鑑としても使えます。

展示区画②～④における年表パネルおよび各解説パネルは、以下を参考にして作成しました。

『日本植物学の父・牧野富太郎』(佐川町立青山文庫、2012年発行)

『植物誌をつくろう! 『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから』(神奈川県立生命の星・地球博物館、2018年発行)

展示区画⑤：【大谷茂初代学芸員と牧野博士との交流】

- ・年表パネル
- ・植物標本1点
- ・牧野富太郎書簡12点
- ・図書資料5点

展示区画⑥：【植物標本のつくりかた】

- ・植物標本7点
- ・標本製作道具6点
- ・解説パネル「標本とは」(以下全文)

標本とは、動物や植物、化石、岩石、鉱物など、その種類の有り様を示すために採集した「実物の見本」です。標本の対象は自然界に存在するもの全てです。

ただし、自然界に存在するものを集めてくれば、それがそのまま標本になるわけではありません。同じ種類の生物であっても、地域や環境によって違いがみられます。また、同じ個体でも季節や成長によって変化していきます。したがって、標本を採集するときには、採集年月日(いつ)・採集地(どこで)・採集者(だれが)といった情報が必要になります。

- ・解説パネル「植物標本の役割」(以下全文)

命名のための基準標本

新種を発表する際には、基準となる標本(タイプ標本)を指定して保存することが国際的な規約で定められています。研究の進展に伴って分類に疑問が生じた時などは、必ずタイプ標本を調べなければなりません。タイプ標本は生物分類学においては最も重要な標本として、厳重に保管されています。

植物の名前を調べる(同定する)

植物の名前を調べたいとき、図鑑などの写真や記述だけではよく分からないことがあります。このようなとき、実物の標本があれば、大きさを測ったりルーペや顕微鏡で細かい形質を観察することができます。また、博物館

などに納められている標本と並べて比較することで、さらに正確に名前を調べることもできます。

植物の特徴や変異を調べる

同じ種類の植物であっても地域や個体によって形が異なることがあります。様々な地域で採集された標本があれば、その種にどのような形態的変異があるのかを、現地に赴くことなく調べることができます。また、標本の作製・保存状態が良ければ、DNAを抽出して分析し、系統関係や由来を調べることもできます。

植物の季節的な変化を知る

植物は季節の移り変わりに伴って、常に変化し続けています。例えば、同じ樹から様々な季節に枝を採集し、標本にして残しておけば、その樹がいつ頃花を咲かせて実を着けるかを知ることができます。さらに、このような標本が何年にもわたって様々な地域で蓄積されれば、植物季節の年変化や地域間の違いを知ることができます。

地域の自然環境とその変化を調べる

地域の自然環境を把握する上で、植物はとても重要な指標となります。また地域の自然環境は、植生の遷移や気候変動、人間活動などによって移り変わっていきます。そのような自然環境の変化と共に、特定の生物種が絶滅したり、外来種のように外から新たな種が入ってくることもあります。標本はその生物がその時その場所に生きていた事の証であり、地域の自然環境の歴史的な変化を知る手がかりにもなるでしょう。

・解説パネル「標本のつくりかた」[とる] (以下全文)

(1) 採集

植物を採集し、新聞紙にはさみます。この時、はさんだ新聞紙に「採集年月日」・「採集場所」・「採集者名」などをペンなどで記録しておきます。

(2) 仮押し

新聞紙に挟んだ標本を重ねて野冊などにはさみ、プレスした状態（仮押しの状態）で持ち帰ります。

ビニール袋などに入れて持ち帰ってから、新聞紙にプレスしても構いませんが、しおれたり花などが脱落しやすく、どちらかという現地ですぐにプレスした方がきれいにできます。牧野先生の頃は胴乱（どうらん）という容器に採集した植物を入れていました。

！採集の際に気をつけること

○採集可能な場所ですか？

採集が禁止されている場所（国立公園などの保護区、天然記念物、私有地など）や、人が栽培しているものの採集には許可が必要です。

○標本採集の目的は？

記録や同定を目的とする場合は、同定の決め手になる花や実（シダの場合は孢子）がついているものを採集します。花や実だけでなく、枝や葉・根などできるだけ様々な部位を標本に含めれば、その植物の特徴を詳細に観察することができます。

○ちょうどよいサイズに

植物標本は、新聞の片面を半分折りたたんだサイズ（およそ30cm×40cm）に収めます。長い枝や葉は折り曲げるか、切断しても構いません。葉や枝が重なりすぎて観察しにくい場合は、一部の葉や枝を間引くか、標本を2枚以上に分けて作ります。標本を2枚以上に分ける場合は、同じセットの標本であることが分かるように、新聞やラベルに同じ標本番号をつけます。

○ちょうどよい個体数で

小さな草本植物の場合は、同じ集団内から複数の個体を採取して、1枚の標本とします（できるだけ様々な大きさの個体を含める）。ただし、個体数が少ない植物は、採集を控えるか必要最小限（たとえば地上部の一部）にし、その場から絶滅させないように配慮しましょう。

・解説パネル「標本のつくりかた」[おす] (以下全文)

(3) 整形

野冊をほどこいて新聞紙を開き、植物の枝や葉をできるだけきれいに広げます。このとき、植物の葉の裏表が両方見えるように、一部の葉を裏返すと良いでしょう。ここで時間をかけすぎると植物が縮れてしまいます。

(4) プレス・乾燥

(4-1)

植物をはさんだ新聞紙と乾燥紙(乾燥マットや新聞紙)を交互にはさんで、積み重ねます。このとき、新聞紙の



標本の活用

間から、枝葉が出ないように注意します。乾燥マットを用いた場合は、必ずポリ袋に入れてからプレスして下さい（乾燥マットが空中湿度を吸うのを防ぐため）

(4-2)

エアプレッサーでプレスする場合は、エアプレッサーに穴が空くと二度と使えなくなるので、とがったものを近づけないなど作業環境に注意しましょう。

(4-3)

乾燥マットを用いた場合は、そのまま4～5日放置した状態で乾燥します。多肉植物など水分が多く乾きにくい植物は、ある程度水分が抜けるまで毎日乾燥マットを交換した方が良いでしょう。新聞紙で乾燥させる場合には、毎日1回（できれば最初の1～2日は2回）、間に挟んだ新聞紙を交換します。手間はかかりますが、急速に乾燥させると植物本来の色を残すことができます。湿ったマットや新聞紙は、専用の再乾燥機や布団乾燥機で乾かして、再利用することができます。

・解説パネル「標本のつくりかた」[はる]（以下全文）

(5) 標本ラベル作成・保管

標本ラベルを作成し、乾燥した標本にはさみます。標本をしばらく保管する場合は、虫に食われたりカビが生えないよう、密閉ケースに防虫剤と除湿剤を入れるとよいです。標本を寄贈する場合は、新聞紙に標本とラベルをはさみ、標本を台紙に貼らずに持ち込むことが一般的です。

博物館では、乾燥後に新聞紙にはさんだままの状態でもビニール袋に入れて完全に密閉し、冷凍庫（-20～-30℃）に3日以上ストックします。冷凍処理を行うことで、標本にダメージを与えることなく標本害虫やその卵を駆除することができます。

(6) マウント

展示や収蔵する標本をラベルとともに台紙に貼ります（マウントするといいます）。ラベルは糊などで台紙に貼り付けます。標本は台紙にバランス良く配置してマウント用テープ（ラミントンテープ）で貼りつけます。このテープはポリエチレンラミネート紙を細いリボン状にしたもので、熱で溶けることを利用し、電気ごてで圧着して貼りつけます。太い枝などは糸と針を用いて台紙に結びつけることもあります。セロテープは、はがれたり汚れが目立つため不適です。

また、小さな葉や花、果実、種子などが分離してしまった場合は、紙を折り曲げて作ったポケットに入れ、台紙に貼り付けておきます。標本をマウントする際は、原則として自然の状態と同じ方向にします。大きな植物の茎

はV・N・M字などに折り曲げます。

・解説パネル「未来につながる植物標本」[のこす]（以下全文）

実物である標本は、当時の自然を伝える最も確かな証拠となります。博物館に収蔵されてる標本の中には、現地では絶滅するなどして、二度と手に入らないものもあります。温湿度や文化財害虫対策の管理をして標本資料を適切に管理・保存し、後世に残していくことは、博物館の重要な使命です。

また、今回の展示では、東京都立大学牧野標本館が収蔵している牧野博士の重複標本と当館の重複標本との交換を実施しました。重複標本とは、同一の個体から得られた複数の標本のことです。標本の交換により、互いの機関において様々な地域や分類群のコレクションを集めることができます。それと同時に、重複標本を多くの館が保管することによって、災害などにより標本損失を免れる等のリスクを分散させることができます。

参考：東京都立大学牧野標本館ホームページ

松浦啓一 編著『標本学 第2版：自然史標本の収集と管理』

展示区画⑦：【植物標本を活用した最近の研究】

・解説パネル「植物標本を研究に活用」（以下全文）

標本を研究に用いる場合、その多くは形態を調べるための資料として位置づけられてきました。また、ラベルから読みとれる情報（分布情報、年代情報など）を研究に用いることもあります。

しかし、近年の技術の革新により、従来では考えられなかったような標本を活用した研究が可能となっています。それは、大量の標本の分布情報から、分布の推定や予測をする「生態ニッチモデリング」解析、過去の標本からDNAを抽出して遺伝情報を活用する「ミュゼオミクス」といったものです。このような新たな手法を用いた研究は、植物の多様性保全や環境問題解決の糸口につながると期待されます。

コラム①

・植物標本画像7点

・植物標本1点

・図書資料9点

・解説パネル「新種を記載するには」（以下全文）

牧野博士は、1889（明治22）年のヤマトグサの発表を皮切りに1500種類もの植物を新種記載してきま

した。発見した未知の植物を新種として発表するには、どうしたらよいのでしょうか？ そのためには、「国際藻類・菌類・植物命名規約」に基づき、出版物上に記載論文を発表しなければなりません。命名法を管理するこの規則は、6年に1度開催される国際植物会議（IBC：International Botanical Congress）において改定されます。

命名規約には、新種を記載するときのルールが細かく掲載されています。

- ・新種の学名をラテン語で明記する
- ・種の特徴や近縁種との違いを明記する
- ・学名の基準となるタイプ標本を指定する
- ・タイプ標本の採集情報と保管先も明記する など

タイプ標本（基準標本）とは、その生物を定義するための、元となる標本のことです。新種記載の際は、必ずタイプ標本を指定しなければなりません。

タイプ標本が採集された産地のことをタイプ産地（基準産地）といいます。

・解説パネル「タイプ標本の種類」（以下全文）

■ホロタイプ holotype（正基準標本）

著者が指定した1個の標本または図解。

■アイソタイプ isotype（副基準標本）

ホロタイプの重複標本。

※重複標本：一緒に採集されて作成された同一個体由来する標本

■シントタイプ syntype（等価基準標本）

記載論文でホロタイプが指定されなかった場合の当該論文に引用された全ての標本。タイプとして複数の標本が指定された場合にもホロタイプではなくシントタイプとなる。

■パラタイプ paratype（従基準標本）

ホロタイプが指定された場合の、記載論文に引用されている残りの標本。

■レクトタイプ lectotype（選定基準標本）

記載論文でホロタイプが指定されなかった場合、ホロタイプが行方不明の場合、ホロタイプに2種以上の生物が混在していた場合に新たに選定された1個体の標本または図解。アイソタイプ、シントタイプ、アイソシントタイプ、パラタイプが残っている場合にはこの順で選出される。

■ネオタイプ neotype（新基準標本）

記載論文で用いた全てのタイプ標本が消失した場合に新規に作られた1個体の標本または図解。レクトタイプになる可能性がある標本が現存している場合にはネオタイプの指定は不可（レクトタイプは常にネオタイプに優先する）。

■エピタイプ epitype

ホロタイプなど、一つの基準標本で生物の同定が困難である場合に分類作業を補足する目的で作られた1個体の標本または図解。

シントタイプ、レクトタイプ、ネオタイプの重複標本のそれぞれをアイソシントタイプ、アイソレクトタイプ、アイソネオタイプという。

コラム②

・植物標本画像1点

・画像パネル1点

・解説パネル「寿衛子夫人」

牧野博士の妻・寿衛子夫人は、明治6(1873)年に元彦根藩士小沢一政の娘として東京で生まれました。幼少の頃は比較的裕福に過ごしたものの、父が亡くなった後は、飯田町で菓子屋を営みはじめた母たちとつましく暮らしていたようです。本郷の大学に行く際、店の前を終始通っていた博士に見染められ、明治23(1890)年に妻となります。

この頃の博士は、植物学教室に出入りしながら『日本植物志図篇』を印刷するために、石版印刷屋で修行中でした。寿衛子夫人との間を仲介したのは、この石版印刷屋の主人であったといいます。

結婚後、夫人は博士が研究に打ち込めるよう13人もの子供を産み育てながら家計を支え、内助の功を發揮しました。昭和3(1928)年2月23日、夫人は病気により亡くなります(享年55)。苦勞を重ねながらも博士を支え続けた夫人に感謝した博士は、仙台から採集した新種の笹を「スエコザサ」(学名を「*Sasaella ramosa* var.



コラム① 新種記載

suwekoana)と名付けました。

墓碑には、博士の詠んだ句が刻まれています。

家守りし妻の恵みや和が学び

世の中のあらん限りやスエコザ

参考:牧野富太郎 1956. 亡き妻を想う。『植物学九十年』

解説パネル「スエコザサ」

スエコザサは、イネ科アズマザサ (*Sasaella ramosa*) の変種として 1929 年に植物研究雑誌 7 巻 5 号に記載されました。アズマザサ属 (*Sasaella*) は日本では約 15 種が記録されていますが、分類は困難のようです。

・アズマザサ

本州全域に分布し、特に関東地方以北に多いとされています。神奈川県内では主に山地を中心にみられます。葉の上面はほぼ無毛(ときに長毛または短毛がある)で、下面は密に毛があります。

・スエコザサ

基準産地の宮城県仙台市のほか、本州北部にまれにみられます。葉の上面は白い長毛があり、下面には軟毛が密生します。

参考:支倉千賀子 2018. アズマザサ属. 神奈川県植物誌調査会編『神奈川県植物誌 2018』

鈴木貞夫 1996. 『日本タケ科植物総目録』

米倉浩司 2016. タケ亜科. 大橋・門田・邑田・米倉・木原編『日本の野生植物 第 2 巻』

コラム③

- ・植物標本画像 1 点
- ・牧野富太郎自筆原稿「三色スミレの渡来」
- ・図書資料 2 点
- ・解説パネル「牧野博士とスミレ」(以下全文)

牧野博士は、ノジスミレやエイザンスミレ、シコクスミレなど様々なスミレの種を命名しました。博士が



コラム② スエコザサ

1888 (明治 21) 年に刊行した『植物学雑誌』や 1916 (大正 5) 年に刊行した『植物研究雑誌』には、スミレに関する論文が多数掲載されています。

また、博士は学術的な論文だけでなく、スミレに関する随筆も著されています。ここでは、博士の「スミレ講釈」の一部「スミレ名談義」の内容を紹介します。博士の文章からは、博士のキャラクターや植物への熱いまなざしをうかがうことができます。

○スミレの語源にがっかり!?

スミレという言葉の響きの美しさから、その名の由来は良いものであると期待したくなります。しかし、和名の由来は花の形が大工道具の「墨入れ」に似ていたことであり、「すみいれ」が「すみれ」となったとされています。これについて、博士は「彼(スミレのこと)の美しい名が傷つけられる気がしてならない」と述べています。

○スミレを菫と表すのは間違い!

スミレの漢字表記に「菫」を用いることは誤りだと主張しています。「菫」は「芹」と同義であり、セリあるいはセロリに使うべきとのこと。スミレと書けばスミレの一種を指すことにはなりますが、「菫」もしくは「菫菜」では絶対にスミレとはならないのだそうです。

参考:牧野富太郎 1943. スミレ講釈. 『植物誌』

展示区画⑧:【資料配架コーナー】

・パネル「謝辞」

本展示の開催にあたり、東京都立大学牧野標本館と標本交換を行い、神奈川県産を中心とした牧野博士の重複標本をいただきました。さらに、牧野標本館からは牧野博士が作成したタイプ標本の画像とシーボルト標本の画像、美しい野菜や果物の画像を借用いたしました。高知県立牧野植物園からは、牧野博士および寿衛子夫人の画像を借用いたしました。神奈川県立生命の星・地球博物館ならびに神奈川県植物誌調査会からは、植物誌調査や植物調査史に関する原稿を使用させていただきました。ふじのくに地球環境史ミュージアムからは質の高い植物模型を借用いたしました。展示パネル原稿にあたっては、根本秀一博士、岩崎貴也博士にご助言を賜りました。多くの方のご協力のもと、本展示の開催を迎えることができました。ここに御礼申し上げます。

協力機関一覧 (50 音順)

神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県植物誌調査会、高知県東京事務所、高知県立牧野植物園、東京都立

大学 牧野標本館, ふじのくに地球環境史ミュージアム,
協力者一覧 (50音順) 敬称略
石橋美晴, 岩切千代子, 岩崎貴也, 加藤英寿, 金子龍次,
甲田龍太郎, 中村朗子, 中山博子, 根本秀一, 村上哲明



コラム③ スミレ



牧野富太郎の書簡

4) パネル展示

「奄美大島昆虫調査 2022」

当館昆虫分野では、三浦半島の生物相の変遷を“身近な昆虫”という切り口で明らかにする試みとして、2021年から「地域生物相の成立背景を考慮した通史展示への対応：地域博物館リニューアルに向けて」をテーマとした研究のもと、三浦半島に影響を及ぼした各地の自然に迫っている。奄美大島やその近海の動植物は、黒潮に乗ってしばしば三浦半島にもやってくるのが知られていることから、昆虫分野でも2022年に奄美大島での調査に着手、3月と8月の2回計8日間実施し、昆虫類を主とした陸上動植物のべ約700種を撮影した。

このパネル展示は、特別展示「黒潮のめぐみ」と併設する形で、同特別展示の会期終盤となる5年1月～2月中旬にかけて、昆虫類を中心に比較的身近に観察できた動物の中から三浦半島には分布していない種を選び、当館で販売中の三浦半島の昆虫図鑑『身近な昆虫365』に沿った体裁で紹介することにより、当博物館の研究活動とその成果について周知を図った。また、1月11日からは三浦半島昆虫研究会の調査協力者による標本展示「奄美大島の標本たち」も追加した。

担当：内船

- 期 間** 5年1月4日から同年2月19日
場 所 人文館3階ラウンジ前壁面
内 容 A2パネル1点およびA1パネル4点ならびに標本箱2点



パネル展示会場



パネル展示 写真①



パネル展示 写真②



パネル展示 写真③



パネル展示 写真④



パネル展示 写真⑤

2 研究発表会

(1) みんなの理科フェスティバル

「第 6 回 みんなの理科フェスティバル」

「こどもからおとなまで、みんなが『理科』でつながる」をテーマに、様々な出展者による研究発表展示やワークショップ、講演会などを開催した。

担当：内船・山本・柴田・萩原

開催場所

本館講座室・1階ロビー・3階ラウンジ，横須賀市文化会館第一・第二市民ギャラリー・中ホール

開催期間

5年1月21日，1月22日

来場者数

2,343人

開催内容

・ギャラリー出展および発表会

開催期間中，文化会館のギャラリーに子どもから大人まで様々な「理科」の作品を集約展示した。

①理科研究

市内小学校「よこすか子ども科学賞」入賞作品および応募作品 28 件のほか，小中学生 7 件，県立高校生 19 件，大学院生 1 件，一般 2 件，当博物館 2 件のポスターもしくはレポート

②理科工作

市内小学校の「よこすか子ども発明展」入賞作品 13 件

③理科活動

県立高校 1 件，大学研究室 1 件，当博物館 1 件のポスターもしくはパネル・作品

④ワークショップ

県立高校 2 件，大学サークル 1 件，企業 3 件，市内活動団体 2 件，当博物館 1 件

⑤表彰式および発表会

表彰式（主催：横須賀市教育委員会，主管：横須賀市小学校理科教育研究会）は「よこすか子ども科学賞」および「よこすか子ども発明展」入賞者を表彰するものであり，中ホールで開催した。発表会（みんなの発表会）は出展者が第一市民ギャラリーに一堂に会して他の出展者や来場者と交流するものであり，来場者の投票によって「イイね！理科大賞」5 件を選出した。

・関連企画

①関連講演会 1（自然環境講演会）

本館講座室. 5年1月22日.

②パネル展示

本館 3 階ラウンジ. 5年1月4日～2月19日. 前項関連企画①とともに，理科フェスティバル実施時期に合わせて開催した。



理科研究ポスターおよびよこすか子ども発明展の作品群



みんなの発表会

③実験演示と演奏

本館1階ホール。5年1月22日。「パイプオルガンの科学と音楽」と題し、市内を拠点とするパイプオルガン工房の技術者と演奏家による、パイプオルガンの音が鳴る科学的機序の解説と身近な音楽の演奏。



表彰式の様子を発表会場にて中継



県立高校生による実験演示およびクラフト体験



子どもたちに人気の「いきもの園」展示



「いね! 理科大賞」の投票ボード



自然環境講演会。トークセッションにおける秋原、瀬戸口浩彰氏、内船 [左から]



本館中ホールで演奏した「パイプオルガンの科学と音楽」

3 調査等出張

(1) 調査出張

「九州地方における本市関係文献資料調査」

本事業では、主に①歴史的に対外交流の窓口となった博多および長崎（出島、長崎奉行所、キリシタン関係）、②寛永19年（1642）以来、長崎警備を担当して異国船来航に対応するとともに、嘉永3年（1850）に日本で初めての鉄製大砲の製造に成功させた「築地反射炉」の設置や安政5年（1858）に蒸気船等の修船・造船、運用のための教育・訓練を行う施設である「三重津海軍所」（現存する国内最古のドライドックを有する）を設置するなど、海防・開国の歴史に深く関わりながら他藩に先駆けて近代化を推進した佐賀藩、③明治以降において横須賀港同様に大日本帝国海軍の一大拠点となった「佐世保港」などに関する史跡や博物館を訪問し、所在史料の把握や展示内容について視察を行った。また、長崎県歴史文化博物館および佐賀県立図書館において三浦半島に関する古文書調査を行った。

（担当：藤井）

調査日程

- 1月24日 西南学院大学博物館，福岡市博物館
- 1月25日 海上自衛隊佐世保史料館
- 1月26日 長崎原爆資料館，グラバー園，出島，長崎（小島）静養所跡資料館
- 1月27日 長崎歴史文化博物館
- 1月28日 佐賀県立佐賀城本丸歴史館，佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
- 1月29日 築地反射炉跡，多布施反射炉跡，佐賀バルーンミュージアム



写真1. 福岡市博物館



写真2. 海上自衛隊佐世保資料館



写真3. グラバー園から三菱重工業長崎造船所（旧長崎製鉄所）方面を望む



写真4. 出島和蘭商館跡



写真 5. 長崎歴史文化博物館
(館内では長崎奉行所内部を再現)



写真 6. 佐賀城
(佐賀県立佐賀城本丸歴史館)



写真 7. 築地反射炉跡



写真 8. 多布施反射炉跡
(品川台場の大砲を幕府から受注し、生産)

(2) 科研費調査出張

「三浦半島の昆虫相のルーツ解明に向けた茨城県央東部調査 ／伊豆諸島昆虫調査／九州南部昆虫調査」

本事業は、茨城県東茨城郡および大洗町ならびに水戸市 (① [写真 1・2]) と東京都伊豆大島および八丈島ならびに静岡県賀茂郡河津町 (②・③ [写真 3～8]) と鹿児島県奄美大島 (④) の 4 回に分けて実施した。

①では、三浦半島が近世に経験したとされる小氷期の平均気温下において海に比較的近い水田耕作環境をもつ茨城県の県央東部にて初夏の身近な動植物を明らかにするため、5月29日～30日の行程で実施した。潤沼や潤沼川周辺ならびに那珂川河口域で調査を行った。

②では、八丈島の夏季の身近な動植物を明らかにするため、6月27日～30日の行程で実施した。なお、同時期に調査に来ていた山本学芸員および横須賀植物会会員にも行程の一部に同行いただいたほか、特定非営利活動法人八丈島観光レクリエーション研究会の石田裕幸博

士の指導のもとヤコウタケの撮影を行った。八丈植物公園および八丈富士および大瀧浦園地 (同町大賀郷)、和泉親水公園 (同町三根) のほか、同町中之郷、檜立、末吉の各地区でも調査を行った。

③では、三浦半島と関わりの深い植物にゆかりの地域での身近な昆虫を明らかにするための予備調査として、カワヅザクラ原木のある静岡県賀茂郡河津町ならびにオオシマザクラ原木がありヤブツバキを原種としたツバキ類を産業として利用する伊豆大島にて、両地域でカワヅザクラやツバキ類のイベントがある5年2月20日～

21日の行程で実施した。昆虫がほとんどいない季節であったが、両地域の象徴的な植物の見頃の時期における姿や調査地の様子について記録を集めた。

④では、前年度春季に実施した予備調査に続く夏季調査として、8月8日～11日の行程で実施した。なお、同時期に調査に来ていた三浦半島昆虫研究会会員にも行程の一部に同行いただいた。あやまる岬(奄美市笠利町)、

マングローブ林(同市住用町)、あかさき公園・おがみ山公園・小湊漁港(同市名瀬)、湯湾岳(大島郡大和村)、湯湾岳公園(同郡宇検村)、旧陸軍弾薬庫跡(同郡瀬戸内町)などで昆虫等の撮影調査を行った。なお、この成果は前述した予備調査の結果とともに、本館にて「パネル展示」として展示した。



写真1. チャイロホソヒラタカミキリの体色2型
(三浦半島では本種の記録は少ない)



写真2. 夜間に活動するヤマトゴキブリ
(三浦半島では近年の本種の記録なし)



写真3. ハチジョウルリボシカミキリ
(八丈島で撮影。トカラ列島および伊豆諸島に分布)



写真4. ホシトリモドキ
(八丈島で撮影。九州以南に分布し八丈島では移入か)



写真5. イエシロアリの兵アリ
(八丈島で撮影。三浦半島でも散発的に発生)



写真6. ヤコウタケ
(八丈島で撮影。東北以南の太平洋岸の各地で確認されるが三浦半島では未確認)

視察出張

「北海道の博物館視察」

北海道の博物館 4 館について、近年のリニューアル状況等について調査した。

担当：柴田・藤井

1. 札幌市博物館活動センター [10月18日]

2001年11月に設立され、博物館建設を目指し、仮の展示室での展示や教育普及活動を行っている。1億3000万年の札幌と石狩低地帯の自然がテーマで、展示の目玉はサップロカイギユウ。山崎真美学芸員(植物学)に展示室や収蔵庫を案内いただき、展示の工夫や博物館建設の見通しなどについてお話を伺った。

「日本一のアンモナイト化石博物館」がテーマで、2011年に常設展示がリニューアルされた。加納学館長と相場大佑学芸員からリニューアルの経緯や展示更新の方針や方法、「三笠ジオパーク」の活動等についてお話を伺った。また、展示室やジオパークの主要なジオサイトであり、博物館に隣接する「野外博物館」を案内いただいた。

2. 北海道博物館 [10月19日]

2015年に北海道開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターを統合した施設として開館。建物は北海道開拓記念館を改修した。圓谷昂史学芸員、小川正人 学芸副館長、水島未記学芸主幹、川田寛人元事務長らからリニューアルオープンの経緯や苦労話をお話いただき、展示室や準備中の特別展示室を案内していただいた。

4. 夕張市石炭博物館 [10月20日]

石炭の歴史を後世に伝え、「夕張を鏡にして自分の街の未来を、働くこと・生きることを考える」ことをテーマとした博物館。2007年に夕張市は政再建団体となったが、博物館は郷土文化施設として維持することが決定され、2018年にNPO炭鉱の記憶推進事業団が指定管理者となってリニューアルオープンした。吉岡宏高館長と夕張市教育課兼社会教育係長の本間功雅氏からリニューアルの経緯や方針、展示物の制作方法などについてお話を伺った。

3. 三笠市立博物館 [10月20日]



写真 1. 札幌市博物館活動センターの外観。
建物は養護学校を改修したものだ。



写真 2. 札幌市博物館活動センターのサップロカイギユウ (レプリカ) と解説する山崎学芸員。



写真3. 北海道博物館の外観.

写真4. 北海道博物館エントランスホールの
ナウマンゾウ(左)とマンモス(右).

写真5. 三笠市立博物館の外観.



写真6. 三笠市立博物館のメイン展示室.



写真7. 夕張市石炭博物館の外観.

写真8. 夕張市石炭博物館の地下展示室。
坑道の様子がジオラマで再現されている。

「全国博物館大会（高知）への参加及び高知県内施設の視察・見学」

第70回全国博物館大会は、令和4年11月16日（水）から11月18日（金）までの3日間、高知県立県民文化ホールを主会場として「地域から発信する博物館の未来」をメインテーマに開催された。本大会には瀬川・山本の2名で参加した。（担当：山本・瀬川）

本大会時は、改正博物館法施行（2023年4月）を控えていたこともあり、新しい登録博物館制度の下でこれからの博物館制度がどのように変わっていくのかについて共有された。また、分科会においては、今後の博物館の運営や活動について重要な「連携」「保存と活用」「運営」の3テーマについて、高知県内の様々な事例紹介を

交えながら議論されていた。大会期間中に高知市内の高知みらい科学館、高知県立牧野植物園の視察を行ったほか、エクスカージョンに参加し、NPO 法人佐川くろがねの会による佐川町上町周辺の町歩き、佐川町立青山文庫、越知町立横倉山自然の森博物館、佐川町立佐川地質館の案内をいただいた。



写真 1. 全国博物館大会会場（高知県立県民文化ホール）



写真 2. 分科会 1 「連携・新たな博物館連携の可能性」の様子



写真 3. 高知みらい科学館（展示室内）



写真 4. 高知県立牧野植物園（企画展示入口）



写真 5. 佐川町上町周辺の町歩き
（「牧野富太郎ふるさと館」外観）



写真 6. 佐川町立青山文庫（建物入口）



写真 7. 佐川町立佐川地質館（展示室内）



写真 8. 越知町立横倉山自然の森博物館（建物外観）

「九州地方における新設・リニューアル館の視察」

当館のリニューアルに向けた現地視察および情報収集を目的として、九州地方に所在する博物館で、近年において新設・リニューアルした博物館の展示手法や運営状況等について視察および職員からの聞き取りを実施した。以下、視察施設の概要を掲載する。（担当：藤井）

1. 小倉城天守閣 [2月21日]

昭和34年(1959)、天保8年(1837)の火災以来焼失していた天守閣を再建し、開館。平成2年(1990)に小倉城全面改装、平成26年(2014)の耐震補強工事等を経て、小倉城天守閣再建60周年にあたる平成31年(2019)に展示内容と内装を約30年ぶりにリニューアル。展示施設設計および展示制作・工事は、トータルメディアが担当。小倉藩の歴史(細川家・小笠原家、小倉藩城下の都市形成など)の歴史、宮本武蔵と佐々木小次郎の生涯をゆかりの資料や模型で展示し、紹介する施設。北九州市のシンボルであり、観光の拠点として位置づけられている。



写真 1. 小倉城天守閣

2. 中富記念くすり博物館 [2月22日]

平成7年(1995)3月、久光製薬の創業145周年事業の一環として開館した博物館。江戸時代中期、対馬藩領であった現佐賀県鳥栖市田代・基山町に起こった「田代売薬」の展示を中心に、「薬(くすり)」の歴史と文化について展示する。令和3年(2021)4月、開館から25年ぶりに展示ケースなどの設備、展示レイアウトの変更などリニューアル・オープン。平成28年(2016)4月、中富記念くすり博物館所蔵の「田代売薬関連の製薬・売薬・信仰儀礼用具及び文書資料3181点(附)売薬土産品(行商用)13点」が佐賀県重要有形民俗文化財に指定されている。



写真 2. 中富記念くすり博物館

3. 八代市民俗伝統芸能伝承館 [2月23日]

令和3年(2021),新規にオープンした展示施設。「八代妙見祭」(平成28年(2016)に登録されたユネスコの無形文化遺産「山・鉦・屋台行事」を構成する行事の1つ)をはじめとした民俗文化財の保存継承と,展示を通して伝統や文化財の魅力を発信する施設。1階「お祭り体験シアター」(高さ約5m,幅約7mのスクリーンが三面)では,八代妙見祭の行列や各地区の笠鉦について高画質映像で臨場感をもって紹介。2階展示室では,八代妙見祭の出し物である笠鉦に飾る幕など八代市内の祭りに関する道具を展示。

4. 熊本博物館 [2月24日]

昭和27年(1952),熊本城内に開館(現在の所在地とは異なる場所)。昭和53年(1978)4月1日,現在地に移転し開館。設計は世界的建築家の黒川紀章氏。平成27年(2015)7月1日より約5年間のリニューアル工事(休館)を経て,平成30年(2018)12月1日にリニューアル・オープン。学芸員:動物(1名),理工(1名),地質(1名),歴史(1名),考古(2名),美術工芸(1名),保存科学(1名),民俗(1名)の8分野による総合博物館。博物館建設から約40年が経過し,施設の老朽化や展示技術の発展が進む状況にあつて,新たな施設機能の充実と展示環境の整備を図り,熊本地域の中核博物館とするためリニューアルを実施する流れとなった。リニューアルおよび展示等の実態について,担当学芸員よりお話をうかがった。

5. 鹿児島県歴史・美術センター黎明館 [2月25日]

昭和43年(1968),明治100年の記念事業として計画され,昭和58年(1983)に前身である「鹿児島県歴史資料センター黎明館」開館。郷土の歴史,文化遺産等に

対する県民の理解と認識を深め,県民の文化活動および学術研究に寄与する施設として設置された人文系博物館。平成13年(2001)6月,公開承認施設として承認される。令和元年(2019)に常設展示一部リニューアル。但し,平成8年(1996)に一度常設展示のリニューアルを実施しているため,開館以来2回目の常設展示リニューアルとなる。平成28年度より全国各地の博物館の事例調査を開始し,令和元年(2019)7月のリニューアル・オープンまでに3年超の期間を要した。令和2年(2020)4月,「鹿児島県歴史資料センター黎明館」は歴史資料以外にも美術・工芸品をも多く収蔵している現状を踏まえ,館の持つ機能や性格をより明確にするためにも,館の名称を「鹿児島県歴史・美術センター黎明館」と改称して現在に至る。リニューアルおよび展示等の実態について,担当学芸員よりお話をうかがった。



写真3. 八代市民俗伝統芸能伝承館



写真4. 熊本博物館



写真5. 鹿児島県歴史・美術センター黎明館

「沖縄・奄美地域における新設・改装施設の視察」

博物館のリニューアルに向けた検討を具体的に進めるための現地視察・ヒアリングとして、沖縄県を中心に2県にわたる視察を行った。視察の目的は二つで、一つは自然系を中心とした様々な規模・館種の博物館の視察をとおりして様々な博物館資料の展示等活用の実例を増やすこと、もう一つは当博物館のリニューアルの際に検討すべきコンテンツである「黒潮の生物」や「発光生物」について、その主要な産地である地域ではどのように展示等博物館活動で扱っているのか、である。

担当：内船

1. 琉球大学博物館（風樹館）[3月14日]

1985年9月開館。「風樹館」は1967年に大学に寄贈された前身施設の名称。学内各学部の資料を保存・公開しており、自然系・人文系2つの展示室を有する。いずれの展示も手掛けた学芸員の佐々木健志助教に、各学部の研究に重心をおいて収集された資料群に対して博物館として収集した資料を加え、学生や一般に向けて分かりやすい解説や見せ方の工夫を施して展示する、種々な手法についてお話を伺った。

2. 沖縄市博物館 [3月14日]

1984年開館、同市文化センター内に図書館および芸能館とともに設置されたが、うち図書館は2017年に新設に伴って移転している。歴史・文化コーナーと自然コーナーの2つの展示室を有し、地域を分かりやすく展示している。展示の特徴や地域における研究・教育活動について、自然分野担当する学芸員の刀禰浩一氏に伺った。

3. 沖縄県民の森 [3月15日]

1986年開設の施設内にある2つの展示棟（森のふしぎ館、木のふれあい館）が、2022年10月にリニューアルされたことから、展示体験学習施設である森のふしぎ館を中心に見学した。森の機能についての視覚的に動きのある展示や、様々な県産材に触れて手ざわりや重さを体験させる展示などが特徴的であった。

4. 国営沖縄記念公園 [3月15日]

前年に開催された沖縄国際海洋博覧会を記念して1976年9月に開園。施設の一つであり2013年10月にリニューアルした海洋文化館を中心に見学した。吹き抜け構造を利用して視点を変えて見ることができる、大型資料やスクリーン投影画像が印象的であった。

5. 久米島ホテル館 [3月16・17日]

2000年5月開館。幼虫期を水中ですごす水生ホテルは日本に3種いるが、広く分布しているゲンジボタル・ヘイケボタルのほかには、1994年に発見され久米島にのみ生息するクメジマボタルがいる。この施設はクメジ

マボタルの保護観察施設として、当博物館の元学芸員・故大場信義氏も関わる中で設置され、屋外には後年ホテル観賞会ができるジオトープも整備された。設置当初から活動している館長の佐藤文保氏と同施設を活動拠点としている久米島ホテルの会事務局長の佐藤直美氏に、施設の沿革や特徴、ホテルをはじめとした環境保全活動における博物館の役割などについて伺った。

6. 沖縄県立博物館・美術館 [3月18日]

2007年11月開館、愛称「おきみゅー」。県立博物館の新館移転に伴い、美術館も併設された複合施設になった。博物館常設展示は、沖縄本島を中心に琉球列島（南西諸島・鹿児島地域の薩南諸島と沖縄地域の島しょを合わせた約1,200kmにわたる弧状列島）の自然・歴史・文化を展示している。島ごとに異なる地質や植生を、豊富な標本や精巧なジオラマによって表現した自然展示が目をつけた。主任学芸員の菊川章氏に、ジオラマや映像投影などの展示手法の特徴などについて伺った。

7. 原野農芸博物館 [3月19日]

1992年に奄美アイランド内に財団法人奄美文化財団原野農芸博物館として開館。アジアの民具・農具・民族衣装などを収集するとともに、奄美のそれと比較展示などを試みる。当博物館元館長の故羽根田弥太氏収集の南洋の民族資料なども収蔵されており、2010年10月豪雨で施設の一部が被災した後、2013年に再開館。同館の展示の特徴や羽根田氏の資料について、学芸員の福原凡香氏に伺った。

8. 奄美博物館 [3月20日]

1987年開館。「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界遺産登録（2021年）に向け2017年に奄美群島国立公園が誕生したことを受け、2019年に全面リニューアル。前出の国立公園が「環境文化型国立公園」という概念を打ち出したことから、リニューアルでも「環境文化博物館」を目指した。リニューアル展示の特徴について、学芸員の喜友名正弥氏に伺った。



写真 1. 琉球大学博物館



写真 2. 沖縄市博物館（沖縄市文化センター）



写真 3. 森のふしぎ館（沖縄県県民の森）



写真 4. 海洋文化館（国営沖縄記念公園）



写真 5. 久米島ホテル館



写真 6. 沖縄県立博物館・美術館



写真 7. 原野農芸博物館



写真 8. 奄美博物館

4 ニュース

馬堀自然教育園の地殻ひずみ計を撤去

馬堀自然教育園の地殻ひずみ計（ひずみ観測施設）が撤去された。撤去工事は令和 5 年（2023 年）1 月 24 日から 2 月 3 日に行われた。この装置は気象庁によって 1976 年に設置され、1977 年から地下 150 m の、1996 年からは地下 250 m の岩盤の体積変化を観測してきた。おもに静岡県沖の駿河トラフで発生が予想される東海地震に備えて情報を発信するための装置であった。しかし、より西方の南海トラフで発生が予想される南海地震に備えた観測が強化されていることもあり、馬堀自然教育園の観測施設はその役目を終えることとなった。幸運にも大きな地震の前兆をとらえることはなかったが、三浦半島では地震の原因となる活断層が存在する。いつ地震が起きても身を守ることができるよう、減災に努めることが重要である。（地球科学担当：柴田）



ひずみ観測施設（2019 年 6 月 25 日）



ひずみ観測施設の撤去工事（2023 年 1 月 24 日）



ひずみ観測施設の跡地（2023 年 2 月 3 日）

5 アンケート

本館と付属施設の来館者の満足度を調査し、展示や運営の参考とするためアンケート調査を実施した。

担当：柴田

調査時期

4 月 1 日～ 5 年 3 月 31 日

調査方法

次の場所にアンケート用紙と回収箱を設置した。

本館：2 階展示室、1 階ホール

馬堀自然教育園：学習棟入口

天神島臨海自然教育園：ビジターセンター 1 階

ヴェルニー記念館：事務室前

回答数

本館：294 件

馬堀自然教育園：36 件

天神島臨海自然教育園：197 件

ヴェルニー記念館：158 件

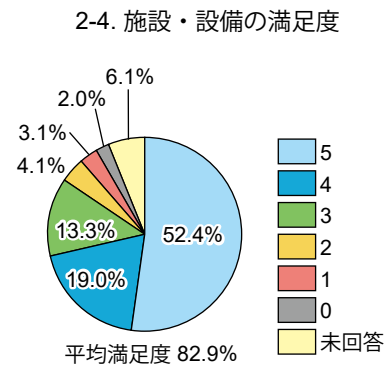
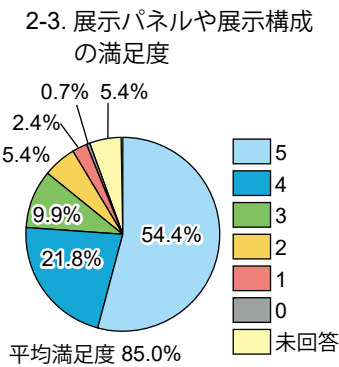
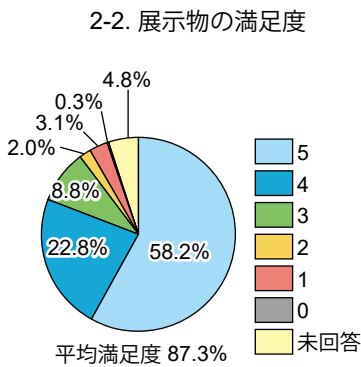
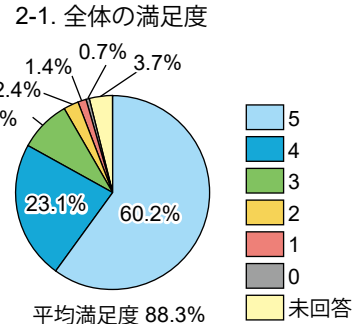
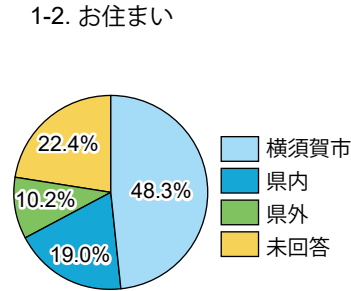
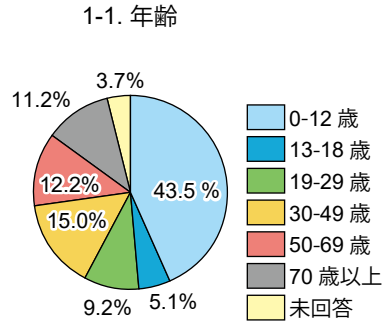
集計結果

自由記述を除く集計結果を 34～37 ページに示す。

[本館のアンケート集計結果 回答数 294 件]

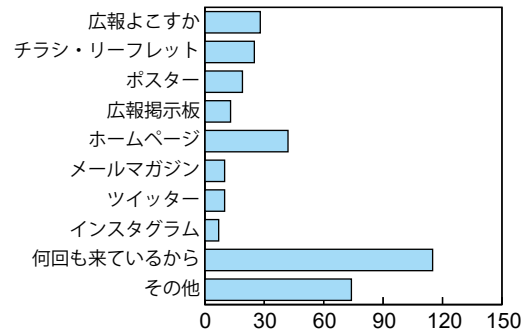
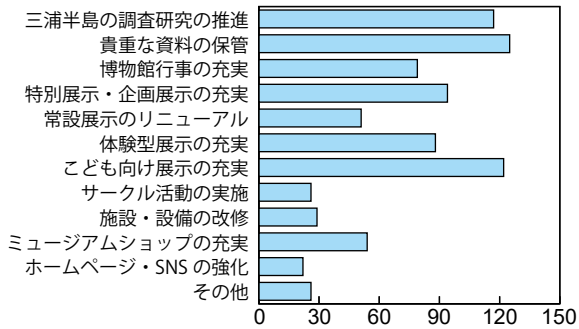
1. お客様について教えてください。

2. 満足度について 5 点満点でお答えください。



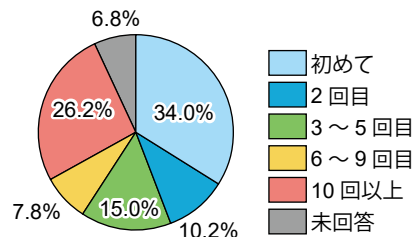
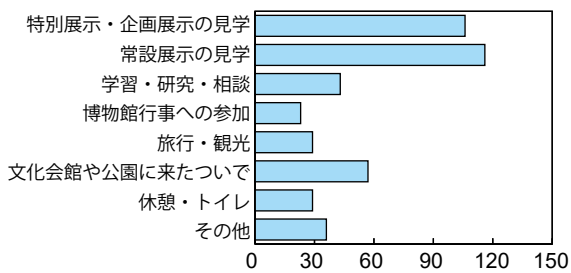
3. この博物館に期待することを教えてください。(いくつでも)

4. 何を見て博物館に来ましたか。(いくつでも)



5. どのような目的で来館されましたか。(いくつでも)

6. この博物館に来たのは何回目ですか。



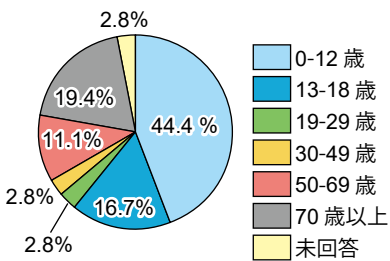
※ 平均満足度は、「5」を 100%、「4」を 80%、「3」を 60%、「2」を 40%、「1」を 20%、「0」を 0%として平均したもの。馬堀自然教育園、天神島臨海自然教育園、ヴェルニー記念館の平均満足度の計算も同様。

[馬堀自然教育園のアンケート集計結果 回答数 36件]

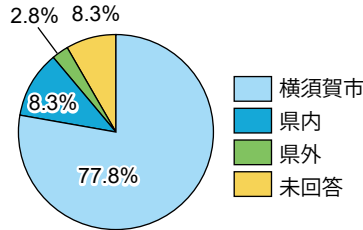
1. お客様について教えてください。

2. 満足度について5点満点でお答えください。

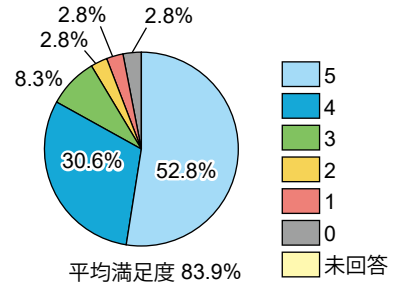
1-1. 年齢



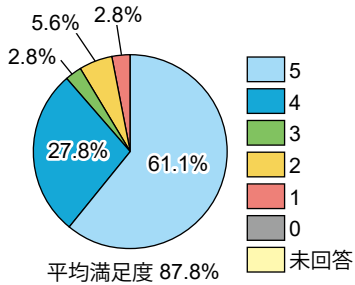
1-2. お住まい



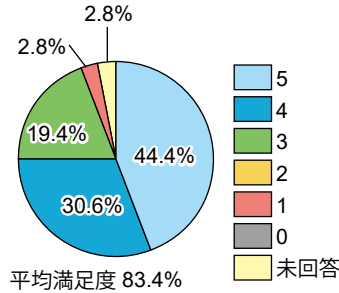
2-1. 全体の満足度



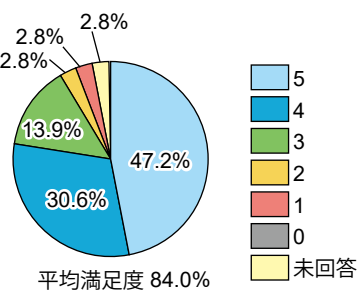
2-2. 教育園の自然の満足度



2-3. 学習棟の展示パネルや展示構成の満足度

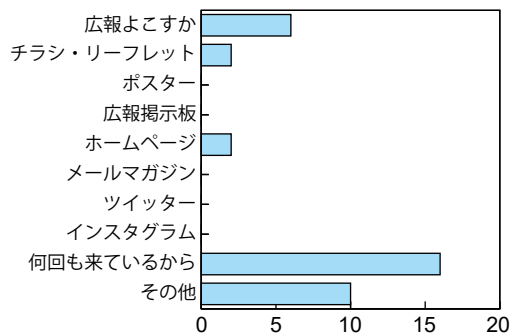
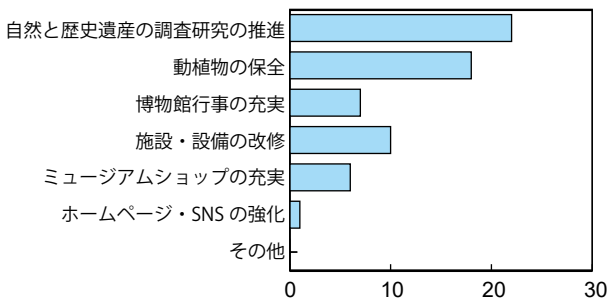


2-4. 学習棟の施設・設備の満足度の満足度



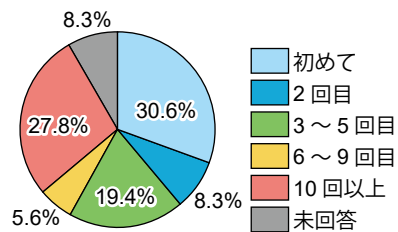
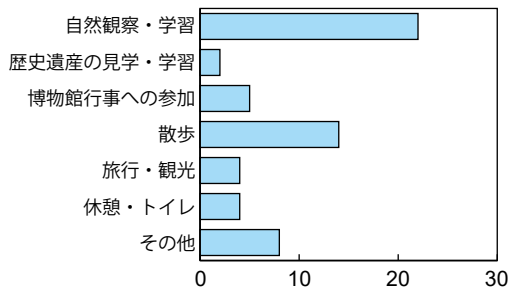
3. 馬堀自然教育園に期待することを教えてください。(いくつでも)

4. 何を見て馬堀自然教育園に来ましたか。(いくつでも)



5. どのような目的で来園されましたか。(いくつでも)

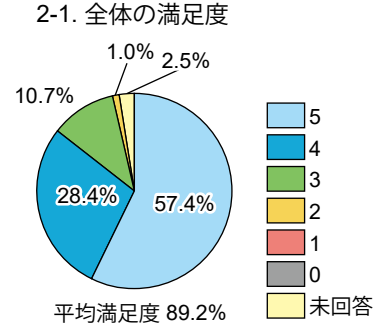
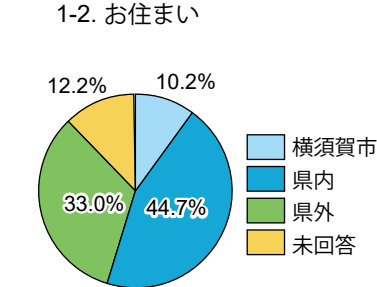
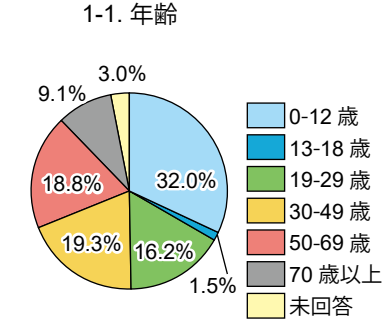
6. 馬堀自然教育園に来たのは何回目ですか。



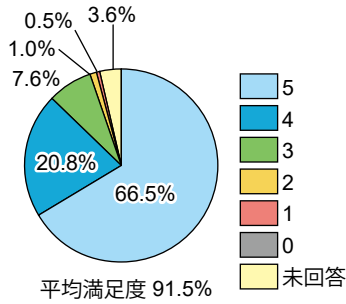
[天神島臨海自然教育園のアンケート集計結果 回答数 197 件]

1. お客様について教えてください。

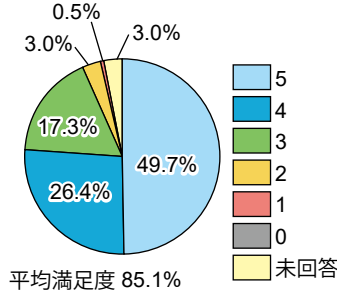
2. 満足度について5点満点でお答えください。



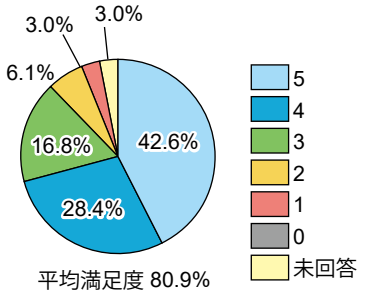
2-2. 教育園の自然の満足度



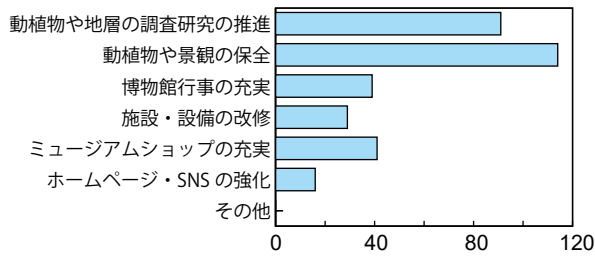
2-3. ビジターセンターの展示構成の満足度



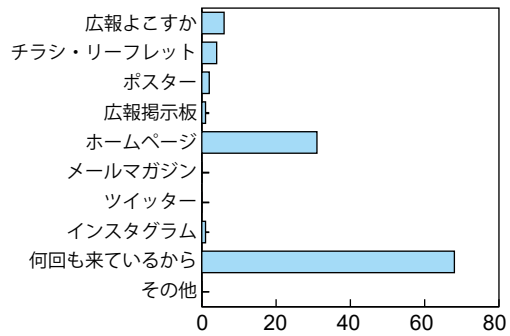
2-4. ビジターセンターの施設・設備の満足度



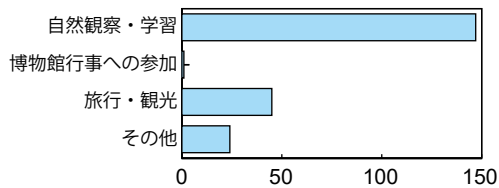
3. 天神島臨海自然教育園に期待することを教えてください。(いくつでも)



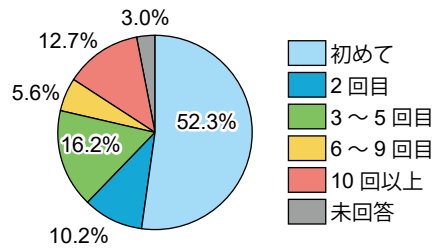
4. 何を見て博物館に来ましたか。(いくつでも)



5. どのような目的で来館されましたか。(いくつでも)



6. 天神島臨海自然教育園に来たのは何回目ですか。

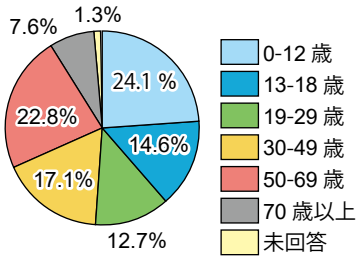


[ヴェルニー記念館のアンケート集計結果 回答数 158 件]

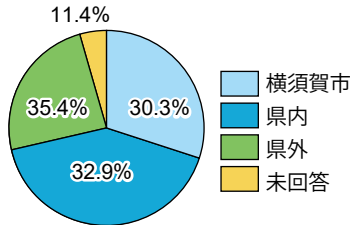
1. お客様について教えてください。

2. 満足度について5点満点でお答えください。

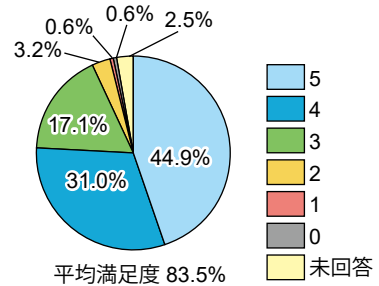
1-1. 年齢



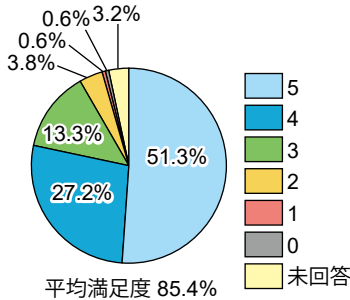
1-2. お住まい



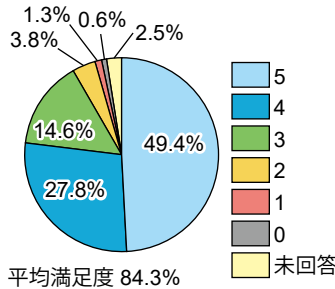
2-1. 全体の満足度



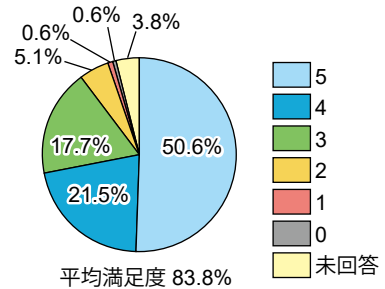
2-2. 展示物の満足度



2-3. 展示パネルや展示構成の満足度

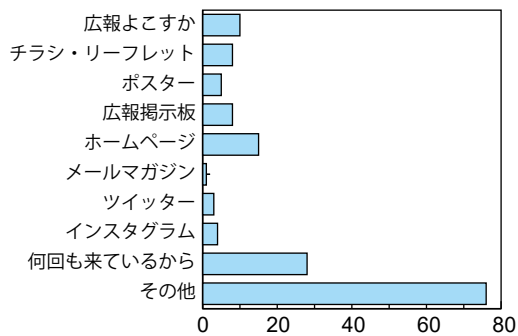
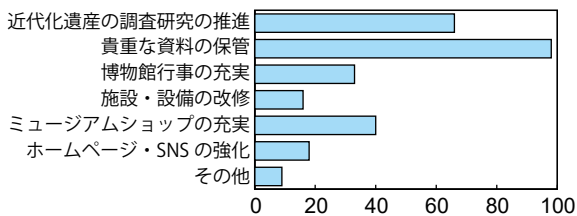


2-4. 施設・設備の満足度



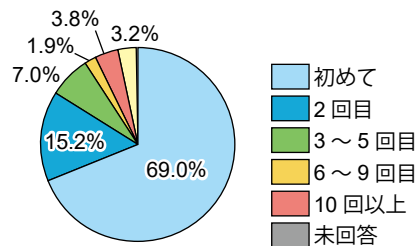
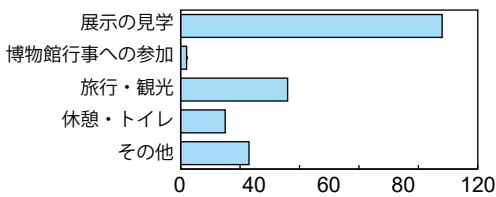
3. ヴェルニー記念館に期待することを教えてください。(いくつでも)

4. 何をみてヴェルニー記念館に来ましたか。(いくつでも)



5. どのような目的で来館されましたか。(いくつでも)

6. ヴェルニー記念館に来たのは何回目ですか。



横須賀市自然・人文博物館
特別展示

黒潮のめぐみ

海流が運んだ生き物と文化

2022 7/23(土) ▶ 2023 1/9(月・祝) 入場無料

横須賀市自然・人文博物館 (特別展示室)

2022 (令和4) 年度 横須賀市自然・人文博物館 特別展示
黒潮のめぐみ ー海流が運んだ生き物と文化ー
2022/7/23 (土) ▶ 2023/1/9 (月・祝)

博物館は横須賀 (三浦半島地域) にさまざまな生き物や文化を運んできた黒潮「黒潮」について、1970年代から流域の資料の収集や調査・研究に取り組んできました。今回の特別展示では、「黒潮」とはどのようなものか、黒潮によってやってくる生き物にはどのようなものがあるのか、その生き物たちのふるさとはどこなのか、「黒潮」ともなっていて、横須賀に根付いた文化や暮らしにはどのようなものがあるのか、わかりやすく解説するとともに、地球温暖化を背景に変わっていく横須賀の海の様子について紹介します。

黒潮とは
世界一強い海流「黒潮」の発生とその流路を、地球物理の観点から解説

黒潮の生き物のふるさと
黒潮の生き物たちのふるさと、サンゴ礁の海中世界や生き物たちのくらし

横須賀にもサンゴが!
横須賀でも見られるクマシメトキやアワサンゴなどサンゴのなかま

ときには紹介ものもー
刺されること無い、カツオ・エビシなどのクラゲを黒潮がはこんでくることも

死ねば油魚
黒潮に運ばれ、冬の寒さで死んでしまう「熱帯魚」のなかまたち

魚類レプリカ
マンボウ、シイラ、キハダなどの大型魚種といっしょに記念撮影

伝えられた漁業
兼着り網、マカセ網漁、一本釣りなど、黒潮によって伝えられた漁業・漁法

黒潮文化
横須賀に伝わる食文化、遊び、歌などには黒潮流域に共通するものがある

会場: 横須賀市自然・人文博物館 (特別展示室)
会期: 2022年7月23日(土) - 2023年1月9日(月・祝)
展示解説: 7月23日、8月27日、12月24日の各土曜日、12月29日(木) - 1月4日(水)
休館日: 月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日(木) - 1月4日(水)
観覧時間: 午前9時 - 午後5時
入場料: 無料

横須賀市自然・人文博物館
TEL: 046-824-3688
〒238-0016 神奈川県横須賀市栗田9-5
https://www.city.yokosuka.lg.jp/kankou/kyokai/kyokai09.htm

【交通案内】
●京浜東北線「横須賀中央」駅から徒歩10分
●JR東横線「横須賀」駅から徒歩10分
●京浜東北線「横須賀中央」下車、徒歩5分
●京浜東北線「横須賀中央」下車、徒歩5分
●横須賀市バス「文化センター」下車、徒歩15分
●横須賀市バス「文化センター」下車、徒歩15分

特別展示
「黒潮のめぐみー海流が運んだ生き物と文化ー」

企画展示

新着資料展 2022!!

～近年収蔵の近現代史料から～
これまで展示されてこなかった近年の収蔵資料を展示紹介します。

2022年 3月5日(土) ▶ 6月19日(日)

【主な展示資料】
●米兵とその家族の似顔絵コレクション
●横須賀市立の小中学校の歴史資料や昔の映画(祝! 小中学校と豊島小学校150周年)
●美しい天井飾り ～戦前の病院と横須賀鎮守府庁舎～
●戦前戦後の雑誌コレクション(横須賀の発展と戦後の大正14年「軍艦」よろず新聞(含む))
●その他、勲章・従軍記章コレクション、横須賀の古写真や旧軍関連資料の一部など

【参加自由・無料】
3月5日(土) 14:00～15:00

横須賀市自然・人文博物館

みなさまのご来館をお待ちしています!!

企画展示の概要

新着資料を初披露する企画展示です。博物館には、多くの資料が大切に収蔵されています。しかし、これら貴重な資料も展覧会のテーマに合わない限り、実物展示の機会に恵まれることはありません。今回の企画展示では、資料の展示機会の拡大を主眼として、展覧会全体のテーマを設定せず、多くの貴重な資料を幅広く紹介します。

- 米兵とその家族の似顔絵コレクション**
～持ち帰られなかった横須賀・日本みやげ～
戦後の横須賀では、アメリカ軍関係者向けのおみやげ民衆が増加しました。その中には、似顔絵を頼んで販売する店も数多くありました。当館では、アメリカから持ち帰られた似顔絵のコレクションを収蔵しており、これらを初めて一室に展示します。
- 横須賀市立の小中学校の昔の資料・写真・記録映像**
～祝! 小中学校と豊島小学校150周年～
2022年は、横須賀市立小中学校と豊島小学校の創立150周年にあたり、これを記念して、この両校をはじめとする一部の市立小中学校の歴史資料や古写真などを展示します。
- 美しい天井飾り** ～戦前の病院と横須賀鎮守府庁舎～
1926(大正15)年に完成した計画横須賀鎮守府庁舎は、外観はモダンながらも内部は西洋の古典様式でデザインされており、当館ではその天井飾りを収蔵しています。当館ではさらに、同じく、西洋の古典様式でデザインされた昭和初期の病院建築の天井飾りを受け、収蔵しています。この戦前の病院の天井とその飾りでは、特に、ギリシャ神話に由来する西洋の古典様式のデザイン要素が色濃く反映されています。
- 戦前戦後の雑誌コレクション**
『海と空』、『南洋グラフィック』、『アサヒグラフ』などの古い雑誌を展示します。そのうち、横須賀関係の記事の一面は、見開きで紹介いたします。さらに、小中学校150周年を記念して、同校出身で東条副都知事兼横須賀市長を務めた平賀謙の記事も展示します。この他、横須賀の地元情報雑誌の「軍艦」(大正14年)も紹介・展示します。当時の広告や挿話など幅広い種類の記事をぜひご覧ください。
- 【その他】勲章・従軍記章コレクション、旧市立病院などの横須賀の古写真や旧軍関連資料の一部など**

横須賀市自然・人文博物館
〒238-0016 神奈川県横須賀市栗田9-5
TEL: 046-824-3688
https://www.city.yokosuka.lg.jp/kankou/kyokai/kyokai09.htm
開館時間 / 9:00～17:00
休 館 日 / 月曜日(祝日、祭日の場合は翌日)

【アクセス】
●京浜東北線横須賀中央駅から徒歩10分
●京浜東北線横須賀中央駅から徒歩10分
●京浜東北線横須賀中央駅から徒歩10分
●京浜東北線横須賀中央駅から徒歩10分
●京浜東北線横須賀中央駅から徒歩10分

企画展示①
「新着資料展 2022ー近年収蔵の近現代史料からー」

企画展示

牧野富太郎がみつめた植物

—植物標本が語るもの—

開催企画 開催決定!

- 5/3 (水・祝) 展示開始
「植物標本が語るもの」
- 5/20 (土) 特別講演会
「牧野富太郎博士の植物標本と現在の植物研究の魅力」
- 6/17・24 (土) 連続講座
「はじめての植物標本づくり」
「はじめての植物標本づくり」



2023
3.18日 - 6.18日

【開催時間】9:00～17:00
【休館日】月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）
【会場】横浜貿易自然・人文博物館 / 本館3階
【お問合せ】横浜貿易自然・人文博物館
横浜貿易自然台 95 TEL.046-824-3658

入場無料

牧野富太郎がみつめた植物 —植物標本が語るもの—

2023 年前期連続テレビ小展「ちんまん」(NHK) のキープでもある
牧野富太郎博士 (1862～1957) は、「日本の植物分類学の父」といわれ、
多くの植物を記録してきました。博士は、三浦半島をはじめ神奈川県
内においても広く植物を採集・調査した記録があります。おたしちち
にとって身近な植物や神奈川にも博士が採集されています。おたしちち
また、牧野博士は全国の植物愛好家との交流と指導を積極的に行っ
ていました。当館の近代植物標本学芸員である大友氏も指導を受けた
1人です。当館には、牧野博士から送られた数々の手紙や標本が收藏
されています。

若き牧野博士が植物学を志した明治時代初期、横浜府立学校の医科
ヤブヅキは日本の植物研究を積極的に進め、「日本植物図誌」を
出版するなど、多くの功績を残しました。植物研究の歴史がある横浜館
の物において、あらためて植物標本の価値を再考しに迫ります。

みどころ

- ・牧野博士が神奈川県内で採集した植物標本を 30 点以上公開
- ・展示! 牧野博士の書簡
牧野博士自筆の手紙や標本を展示!
- ・美しい標本
近年の技術と工夫によって制作された
標本や標本の歴史! (標本製作: 辻本美由紀、東京理科大学)
- ・未来へつなぐ標本
標本を活用した最新の研究事例を紹介! (図説: 辻本美由紀、(法政の東京女子大学)
資料提供: 辻本美由紀、(法政の東京女子大学) 資料提供: 辻本美由紀、(法政の東京女子大学)

特別講演「植物標本が語るもの」

講師: 山本 篤字 眞流 (横浜貿易自然・人文博物館)
日時: 2023年5月3日 (水・祝) 13:00～14:00
会場: 横浜貿易自然・人文博物館3階特別展示室 (定員:なし) (事前申込不要)

特別講演会「牧野富太郎博士の植物標本と現在の植物研究の魅力」

講師: 村上 智博 教授 (東京理科大学 牧野博士館 館長)
日時: 2023年5月20日 (土) 14:00～16:00 (開場 13:30)
会場: 横浜貿易自然・人文博物館3階特別展示室 (定員: 先着 200人) (事前申込不要)

連続講座「はじめての植物標本づくり」

講師: 山本 篤字 眞流 (横浜貿易自然・人文博物館)
日時: 2023年6月17・24日 (土) 14:00～16:00
会場: 横浜貿易自然・人文博物館1階展示室 (定員: 20人) (事前申込制・連続講座)
申込受付: 6月2日 (土) 申込方法は「横浜貿易自然・人文博物館ホームページ」をご覧ください。

観覧券券別: ・ふたごのくに地球館ミュージアム (横浜貿易自然・人文博物館) ・東京理科大学 TMU プレミアム
「植物標本学」 (東京理科大学) 2023年7月1日 (土)～3月3日 (日) 2023年11月16日 (土)

企画展示②
「牧野富太郎がみつめた植物—植物標本が語るもの—」

第6回 みんなの理科フェスティバル

理科、あの日は
いつも忘れられない!
学びの楽しさを
思い出してみませんか?

みんなくらぶ1まわら! ワークショップ
文化会館
3階 市民ギャラリー
1/21 (土)・1/22 (日)
10:00～16:00

みんなの発表会
文化会館
3階 市民ギャラリー
1/21 (土)
① 10:30～12:00
② 13:30～16:00

1/22 (日) 13:30～15:30
特別講演
「美しさが選んだ自然」
講師: 山本 篤字 眞流 (横浜貿易自然・人文博物館)
講師: 山口 智樹 教授 (理教大)
1/22 (日) 13:30～15:30
特別講演
「美しさが選んだ自然」
講師: 山本 篤字 眞流 (横浜貿易自然・人文博物館)
講師: 山口 智樹 教授 (理教大)

2023
1/21日・22日 9:30～17:00

【会場】横浜貿易自然・人文博物館 / 横浜貿易文化会館
【問合せ】横浜貿易自然・人文博物館 (本館)
〒226-0011 横浜貿易自然台 95 TEL.046-824-3658
TEL: 横浜貿易自然台 95 TEL.046-824-3658
TEL: 横浜貿易自然台 95 TEL.046-824-3658
TEL: 横浜貿易自然台 95 TEL.046-824-3658

文化会館3階 市民ギャラリー

みんなの発表会
1/21 (土) 10:30～12:00
1/22 (日) 13:30～16:00

理科・科学活動
「理科」をテーマにした実験教室
1/22 (日) 10:00～16:00

電子顕微鏡デモンストレーション
1/21 (土) 10:00～16:00

水圧をテーマにした実験教室
1/22 (日) 10:00～16:00

科学の世界を楽しもう!
1/22 (日) 10:00～16:00

国立大いきもの園
1/21 (土)・22 (日) 10:00～16:00

演劇会
「美しさが選んだ自然」
1/22 (日) 11:00～12:30

演奏会
「ハレがアツク!」
1/22 (日) 11:00～12:30

みんなの理科フェスティバル

博物館事業概要

令和 4 年度 (2022 年 4 月～2023 年 3 月)

6 展示教育普及事業

(1) 主催事業① (展示)

ア 特別展示・企画展示 (本館特別展示室)

タイトル	展示種別	担当	開催期間	見学者数	備考
黒潮のめぐみ—海流が運んだ生き物と文化—	特別展示	萩原・瀬川	7月23日～5年1月22日 [153日間]	30,234人	黒潮の影響を受けた生物の標本や映像・画像, 黒潮に乗って伝来した文化に関する資料などを展示した。
新着資料展 2022 —近年収蔵の近代資料から—	企画展示	菊地・瀬川・藤井	前年度より継続～6月19日 [69日間]	14,200人	アメリカ兵と家族の似顔絵, 横須賀を記録した「写真」や刊行物などを展示した。館報第 69 号参照。
牧野富太郎がみつめた植物—植物標本が語るもの—	企画展示	山本	5年3月18日～令和5年度へ継続 [12日間]	2,580人	「植物分類学の父」といわれる牧野富太郎に関連した標本や書簡等を展示した。

計 3 件：延開催日数 234 日, 延見学者数 47,014 人

イ 常設展示

(ア) 展示新設・更新

○天神島ビジターセンター ロビー
アメフラシ及びアマクサアメフラシの実物大模型各 1 点の展示を開始した。5 年 2 月 14 日設置。(担当:萩原)

(イ) 展示更新

○馬堀自然教育園 園路
樹名板 20 点を追加更新した。馬堀自然教育園。8 月 17 日更新。(担当:山本)

○ミニトピック展
自然館中 3 階。博物館研究報告(自然)69 号掲載の「カマクラキタイムシ」をテーマに入れ替えを行った。
4 年 10 月 8 日更新。(担当:内船)

○ヴェルニー記念館展示室
覗き展示ケースの移動と展示品を一部更新した, 5 年

2 月 2 日。(担当:菊地)

○横須賀製鉄所ジオラマ

横須賀製鉄所全景タペストリー設置 (ペリー上陸図のタペストリーより更新)。5 年 3 月 31 日更新。(担当:菊地, 藤井)

○生体展示コーナー

自然館 2 階。昆虫類の動的な展示として 6 種約 70 個体を入れ替えながら展示した。自然館 2 階。年間。(担当:内船)

○くずし字体験コーナー

ワークシートとワークスペースを設置した。人文館 2 階。4 年 3 月 27 日設置。(担当:藤井)



自作したアメフラシの実物大模型展示



横須賀製鉄所全景タペストリー

ウ トピックス展示

(ア) 自然館(本館1階トピックス展示コーナー)

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備考
平和中央公園の春の植物	山本	前年度から継続～ 5月5日 [30日間]	6,294人	サクラやツツジなど、平和中央公園の春を彩る植物を標本や写真パネルで紹介した。また、平和中央公園で行われた「みどりの愛護」の集いの事業についても紹介した。あわせて、秋篠宮皇嗣同妃両殿下によるお手植えについてのパネルや両殿下が実際に使用された水差しや移植ごとも展示した。
三浦半島の漂着軽石	柴田	5月7日～7月3日 [46日間]	9,112人	2021年8月に噴火した小笠原諸島の海底火山、福徳岡ノ場。その噴火で放出され、その後天神島に漂着した軽石を展示した。
カブトムシを調べよう	内船	7月9日～8月28日 [44日間]	10,935人	「三浦半島カブトムシ調査」実施機関に合わせ、調査の概要や過去の成果の一部を紹介し、研究活動への理解を深めた。標本84種103点。
平和中央公園の秋の植物	山本	9月3日～10月16日 [38日間]	6,827人	平和中央公園の秋を彩る植物を、標本や写真パネルで紹介した。
基礎から学ぼう昆虫学の成果展	内船	10月22日～12月4日 [34日間]	6,385人	当年度に開催した「基礎から学ぼう昆虫学」の参加者や講師が制作した標本・レポート・写真等を展示した。
ウサギ・兎・卯年	萩原	12月10日～5年1月22日 [33日間]	6,702人	令和5年の干支である卯年にちなみ、ウサギとウサギに関連した生物標本、模型、日本に棲息するウサギに関する解説パネルなどを展示した。
新着標本 2023	萩原・柴田・内船・山本	5年1月28日～次年度に継続 [54日間]	9,693人	収蔵資料のうち、初めて公開されるオルニトミムスの足骨、ユーブランセラス、ディクラナルス、マクロクリナス等の化石、ニセカラクサケマン、ハイネス等のさく葉標本、ムラタヒゲナガハリバエ、カイコクロウジバエ、ブランコヤドリバエ、イチモンジカメムシ、タテスジヒメジンガサハムシ等の昆虫標本、カワリヌマエビ属の一種、ユウレイイカの液浸標本、コンドル、ゴールデンイーグルの風切羽根の標本を展示した。

計7件：延開催日数279日、延見学者数55,948人



トピックス展示「三浦半島の漂着軽石」



トピックス展示「カブトムシを調べよう」



トピックス展示「平和中央公園の秋の植物」



トピックス展示「基礎から学ぼう昆虫学の成果展」



トピックス展示「ウサギ・兎・卯年」



トピックス展示「新着標本 2023」

(イ) 人文館

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備考
和本にみる鎌倉	藤井	前年度から継続～5月15日 [39日間]	8,091人	江戸時代の和本(版本)を通して、武士の都・鎌倉とゆかりの武将などについて紹介した。本館2階渡り廊下。
むかしの絵葉書と郵便資料	菊地	6月11日～9月18日 [82日間]	17,758人	「むかしの横須賀を写した絵葉書や昔の郵便関係の資料を展示した。「横須賀郵便局所属 発動汽船飛鴻丸」(昭和13年)の絵葉書なども初めて展示した。本館2階渡り廊下。
「3Dスキャンでみる横須賀近代化遺産」	菊地	10月1日～5年3月26日 [147日間]	27,351人	3Dスキャンによる横須賀の近代化遺産の調査成果を幅広く紹介した。3D映像や解説パネルに加えて、模型や旧海軍の建築部材なども展示した。人文館3階第1学習室。

計3件：延開催日数268日，延見学者数53,200人



トピックス展示「3Dスキャンでみる横須賀近代化遺産」①



トピックス展示「3Dスキャンでみる横須賀近代化遺産」②

エ その他

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備考
パネル展「奄美大島昆虫調査2022」	内船	5年1月4日～2月19日 [41日間]	8,396人	特別展示「黒潮のめぐみ」会場に隣接した人文館3階ラウンジにパネルを展示した。

(2) 主催事業② (学習会)

ア 博物館教室

行事名	担当	開催日	開催場所	延参加者数	備考
そだててしらべる!カブトムシ	内船	5月7日, 7月9日(全2回)	本館	58人	身近な昆虫であるカブトムシを教材に, 飼育体験を通じて昆虫の形や生態について学んだ。1回目に配布したカブトムシの幼虫を飼育し, 羽化した成虫を2回目に持参していただいた。また, 当館の「カブトムシ移動調査」について理解を深める機会とした。
基礎から学ぼう昆虫学	内船	5月22日, 6月12日, 7月17日, 8月21日(全4回)	本館, 平和中央公園	123人	身近な昆虫観察に必要な知識・技術を習得し, 地域の自然環境を継続的にモニタリングできる人材の育成を目標に実施した。本館・平和中央公園のほか, 県立観音崎公園でも実施した。7月17日の観音崎公園は雨のため予定より早めに終了した。学習成果は本館にて展示した。協力: 三浦半島昆虫研究会
植物はかせ入門	山本	6月18日, 6月25日, 7月2日, (全3回)	本館	39人	博物館周辺の植物観察をしながら, 植物標本や植物図鑑をつくった。植物学の基礎的な知識を学ぶ場を提供した。
はっけん!平和中央公園(ボランティア養成講座)	山本・内船・磯口	7月3日, 8月7日, 9月18日, 10月9日(全4回)	本館, 平和中央公園	10人	博物館に隣接する平和中央公園の自然や歴史の魅力を, さがし・つたえるボランティアへつなぐための養成講座として実施した。各回, 本館での講義・振り返りと公園でのフィールドワークを実施した。9月4日に予定していた回は講師の都合により9月18日に変更した。
古文書講座(初級編)	藤井	8月7日, 8月14日, 8月21日, (全3回)	本館	45人	初級者向け連続講座として, 江戸時代の古文書をテキストとした, 基本的なくずし字の読み方や史料の読み解き方について学ぶ講座を開催した。
三浦半島の自然誌	柴田・萩原・内船・山本	11月5日, 11月12日, 11月19日, 11月26日, 12月3日(全5回)	本館	51人	三浦半島の身近な自然について解説した。地球科学, 昆虫学, 植物学, 魚類学について講義した。第5回は事前申し込み不要の公開講座とした。
三浦半島の都市建築史	菊地	11月10日, 11月11日(全2回)	本館, 汐入, 本町	20人	横須賀・三浦半島の近代化と都市化について, 歴史的建造物を通して伝える行事。当該年度では, 関東大震災から100年目を迎えようとする中で, 震災と復興を主要なテーマとした街並みの踏査も行った。
三浦半島の民俗	瀬川	12月15日, 12月22日(全2回)	本館, 秋谷	29人	横須賀市西地区に伝わる昔話や伝説について講義した。2回目の野外では, 実際に昔話や伝説の舞台になった地域を視察した。
横須賀ジオツアー(地層見学講座)	柴田	5年2月12日, 2月26日, 3月12日, 3月26日(全4回)	本館, 阿部倉~衣笠, 観音崎	72人	三浦半島の地球科学について室内で解説したのち, 阿部倉~衣笠, 観音崎の地層・岩石を観察した。第4回は雨天のため中止。

計9件: 延開催日数29日, 延参加者数447人



博物館教室「基礎から学ぼう昆虫学」



博物館教室「植物はかせ入門」

イ 自然観察会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
観音崎の地層	柴田	5月15日	観音崎	23人	観音崎の地層(三浦層群逗子層,池子層)を観察し,三浦半島の生い立ちについて解説した.協力:三浦半島活断層調査会.
ホタルのかんさつ①,②	内船	①6月4日, ②6月11日	馬堀自然教育園	①49人 ②44人	ホタルの生態や自然教育園による環境整備・生物保護活動について解説を行い,ホタルを観察した.①ではゲンジボタル40個体のみ,②でもゲンジボタル70個体のみが確認された.
ウミウシのかんさつ	萩原	6月5日	天神島臨海自然教育園	25人	天神島の磯でみられる貝殻が退化した巻貝であるウミウシのなかま11種を観察した.協力:相模湾海洋生物研究会.
潮だまりの生き物	萩原	7月29日	天神島臨海自然教育園	21人	天然の水族館ともいわれる,潮が引いた磯にあらわれる「潮だまり」の生き物のくらしぶりを.天神島臨海自然教育園の潮だまりで観察した.
夜の昆虫かんさつ①,②	内船・山本	①8月5日, ②8月6日	天神島臨海自然教育園	①33人 ②29人	自然教育園が有する海岸の自然環境と博物館の調査活動とを体験する機会として,夜間昆虫調査をテーマに観察会を実施した.明かりに集まる昆虫や夜の砂浜を徘徊する昆虫等を観察したほか,ハマオモトと訪花昆虫の解説も行った.
箱めがねで磯の生き物観察	萩原	8月12日	天神島臨海自然教育園	15人	簡易な水中観察道具である「箱めがね」を使って,天神島臨海自然教育園の磯の生き物の生態を観察した.協力:相模湾海洋生物研究会.
猿島の地層	柴田	10月2日	猿島	30人	東京湾唯一の自然島,猿島の地層を観察した.協力:三浦半島活断層調査会.
トウキョウサンショウウオの観察	萩原	5年3月11日	馬堀自然教育園	14人	馬堀自然教育園内で保護育成中のトウキョウサンショウウオの成体・卵のうや,アカハライモリとの違いを観察した.

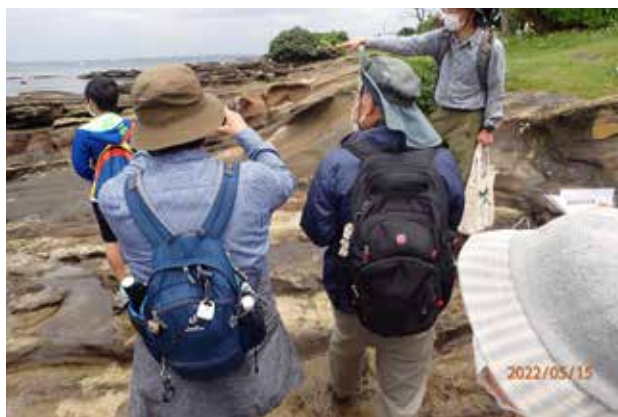
計8件,延参加者数283人



博物館教室「はっけん! 平和中央公園」



博物館教室「横須賀ジオツアー」



自然観察会「観音崎の地層」



自然観察会「夜の昆虫観察」



自然観察会「潮だまりの生き物」



自然観察会「箱めがねで磯の生き物観察」

ウ 展示解説・ガイドツアー

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
自然館ミュージアムトーク①～④	萩原・柴田・内船	① 5月3日, ② 8月11日, ③ 11月3日, ④ 5年1月4日	本館	① 13人 ② 10人 ③ 10人 ④ 7人	自然館の常設展示, トピックス展示, 最近の話題などについて解説した。
企画展示解説「新着資料展 2022～近年収蔵の近現代史料から～」	菊地	5月1日	特別展示室	21人	企画展示「新着資料展 2022～近年収蔵の近現代史料から～」について, 学芸員が展示資料の見所や収集にまつわるエピソードなどを交えて解説した。
文化財収蔵庫解説	瀬川	5月1日	文化財収蔵庫	28人	国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具」について, 神奈川大学の安室知教授が解説した。
歴史展示ツアー(歴史・民俗編)①, ②	菊地・瀬川・藤井	① 5月21日, ② 8月19日	本館	① 8人 ② 16人	人文館2階常設展示室の近世・近代・民俗分野の展示エリアを中心に3部門の学芸員が展示解説を行った。
特別展示解説「黒潮のめぐみ」①～③	萩原	① 7月23日, ② 8月27日, ③ 12月24日	特別展示室	① 26人 ② 11人 ③ 12人	特別展示「黒潮のめぐみ」について, 三浦半島で見られる黒潮に由来する生き物やそれらが生まれたサンゴ礁の環境, 近年の地球温暖化や記録的な長期にわたる黒潮の大蛇行の影響などを解説した。
博物館たんけん	瀬川・柴田	7月28日	本館	20人	展示室の裏側や資料室, 人文館の屋上などを案内した。案内: 萩原・瀬川・柴田・内船・藤井。
歴史展示ツアー(小・中学生対象)①, ②	瀬川・菊地・藤井	2月15日 ①午前 ②午後	本館	① 8人 ② 9人	市立の小中高が休校となる市政記念日に合わせて, 小中高の児童・生徒を対象に, 人文館常設展示の解説を行った。
天神島ガイドツアー	小長谷	毎月第4日曜 (計12回開催)	天神島臨海自然教育園	延57人	天神島臨海自然教育園の概要を説明するとともに, 季節ごとの見どころを紹介した。4月, 8月, 5年3月は荒天等のため中止となった。

計8件: 延開催回数25回, 延参加者数256人



展示解説「自然館ミュージアムトーク」



ガイドツアー「博物館たんけん」

エ ワークショップ

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
身近な自然でミニクラフト①～⑥	山本	① 4月29日 ② 5月4日 ③ 8月11日 ④ 1月7日 ⑤ 2月15日 ⑥ 3月25日	本館	① 44人 ② 84人 ③ 147人 ④ 59人 ⑤ 55人 ⑥ 48人	来館者満足度に貢献することを目的に、気軽に参加できる体験型イベントとして身近な植物の押し花素材をつかったカードやしおりを作成した。
こども地球教室	柴田	7月30日	本館	34人	大昔の生物や土地のつくり、地震のしくみなどについて学びます。化石や岩石を観察や、地震の実験を通して学習した。
自分でつくる！化石レプリカ①、②	柴田	8月20日 ①午前 ②午後	本館	① 48人 ② 49人	三葉虫とサメの歯の化石レプリカをつくり、大むかしの生物について学習した。
つくって学ぶ！しだ・こけテラリウム①、②	山本	① 11月5日 ② 11月6日	①馬堀自然教育園 ②本館	① 15人 ② 14人	シダやコケを中心とした植物の解説を行いながら博物館周辺を散策した。散策後は参加者自身が採集したシダやコケを用いてテラリウムを作成した。
森のさんぼとクリスマスクラフト①、②	山本	① 12月3日 ② 12月10日	①馬堀自然教育園 ②本館、平和中央公園	① 20人 ② 37人	馬堀自然教育園や平和中央公園を散策しながら冬季に見られる果実や種子を観察した。参加者が採集した植物などを用いてクリスマスかざりを作成した。

計 5 件、延参加者数 654 人

(3) 主催事業③ (イベントその他)

ア 博物館講演会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
よこすか歴史物語 1 「新視点でみた横須賀製鉄所～その機械工作設備とサバティエの医業績」	菊地・瀬川・藤井	6月12日	本館	103人	定員を大幅に超える参加希望者が訪れ、会場に入らなかった方が多数にのぼり、行事のテーマに対する関心の高さが窺われた。会場に入らなかった方々に対しては、講演会の動画配信を行った。講演プログラムは以下の通り。 ①「横須賀製鉄所フランス人医師サバティエの生涯に渡る医業績」(江沢暁彦, 江沢医院医院長), ②「横須賀製鉄所手引書にみる機械工作設備について」(毛利邦彦, 元東京海洋大客員教授)
よこすか歴史物語 2 「石垣からみた横須賀の歴史的景観」	佐藤・菊地・瀬川・藤井	7月16日	本館	50人	横須賀にあるブラフ積み石垣や歴史的建造物について、その歴史の既往歴史成果の紹介より、歴史遺産の活用や保存対策に主眼を置いた新たな試みとして行事を行った。 講演プログラムは以下の通り。①「建築物から見るヨコスカの景観」(富澤喜美枝, 横須賀建築探偵団代表), ②「ヨコスカにおけるブラフ積み石垣の分布と歴史的景観」(吉田秀樹, 横須賀建築探偵団)

計 2 件、参加者数 153 人



ワークショップ「身近な自然でミニクラフト」



ワークショップ「自分でつくる！化石レプリカ」

イ 研究発表会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
みんなの理科フェスティバル	内船・山本・萩原・柴田	5 年 1 月 21 日, 1 月 22 日	文化会館第 1・2 市民ギャラリー, 本館	2,343 人	学芸員や小中学生, 高校生, 大学生, 市民団体等の研究成果展示, ワークショップ, 関連講演会等を行った。

計 1 件：延開催日数 2 日, 延参加者数 2,343 人

ウ 特別公開

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
文化財収蔵庫公開	瀬川	4 月 28 日～5 月 1 日, 11 月 3 日～11 月 6 日	文化財収蔵庫	467 人	普段は公開していない国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具 2,603 点を公開した。
ナイトミュージアム	内船・萩原・山本・瀬川	10 月 22 日	本館	105 人	参加者を 4 つのグループに分け, 時間差で常設展示 (自然館 1 階, 同 2 階, 人文館 2 階) を案内したほか, 講堂では博物館制作動画の上映とオリエンテーション, 1 階ホールではグッズ販売, セルフガイドの解答配布, アンケートなどを実施した。開催にあたり近隣商店街・町内会関係者 10 人を含む 17 人のボランティアに協力いただいた

計 2 件：延開催日数 9 日, 延参加者数 572 人

エ クイズラリー

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
こどもクイズラリー	萩原・菊地・金満・峯山・横山	7 月 16 日～8 月 28 日	本館	993 人	本館の展示の中からワークシート形式でクイズを出題し, 回答した参加者には記念品をプレゼントした。
博物館クイズ「すかさずの挑戦状」	柴田・山本・金満・峯山・横山	5 年 2 月 1 日～2 月 28 日	本館	187 人	館内を見学しながらキーワードを探し出すイベントとして開催した。中学生以下の参加者には記念品としてカラスウリの種をプレゼントした。

計 2 件：延開催日数 62 日, 延参加者数 1,180 人

オ おでかけ博物館

行事名	担当	開催日	開催場所	備考
第 12 回おでかけ博物館	柴田・内船・山本・瀬川	4 月 2 日	文化会館	文化会館中ホールで開催された古本市「ブックミュージアム」において, 博物館資料の展示を行った。
第 13 回おでかけ博物館	萩原・柴田・内船・山本・瀬川	10 月 8 日	上町 (中里通り)	上町商店街主催のイベント「うわまつり」において, 博物館資料の展示とワークショップを行った。

計 2 件



特別公開「ナイトミュージアム」



研究発表会「みんなの理科フェスティバル」



おでかけ博物館「横須賀ブックミュージアム」



おでかけ博物館「うわまつり」

(4) 主催事業④ (出版・制作)

ア 館報 69号

PDFデータのみ公開。12月発行。A4判83ページ。無料。(担当:柴田)

イ 研究報告(自然) 70号

5年3月28日発行。B5判88ページ。650円。(編集委員:山本・内船・萩原・柴田, 担当:山本・内船)
Matsukawa M. and Shibata K.: Aptian-Albian (Lower Cretaceous) ammonite assemblages of the Miyako Group in the Sakiyama region, Miyako City, Iwate Prefecture, northeast Japan: 1-38.

柴田健一郎・小長谷美沙・新城竜一: 福徳岡ノ場2021年噴火起源軽石の漂着量とサイズの時間変化: 神奈川県天神島の例: 39-51.

坂井 充・鈴木紀毅: 三浦半島・野比海岸(中新統葉山層群)から産出した放散虫化石群集: 53-62.

Sugawara H., Sueyoshi S. and Nagano M.: Taxonomic re-evaluation of the Oita salamander *Hynobius dunni*: Description of two new species from Kyushu, Japan: 63-79.

萩原清司: 横須賀市荻野川から得られたカワリヌマエビ属の記録: 81-82.

齋藤 理・内船俊樹: 横須賀市における「オオアオホソゴミムシ」(ゴミムシ科:ゴモクムシ亜科)の記録の再検討: 83-84.

齋藤 理・内船俊樹: 三浦半島におけるオオハナノミ科2種の記録: 85-86.

山本 薫: 57年振りに発見された三浦半島産ハイネズ *Juniperus conferta* Parl. (ヒノキ科): 87-88.

ウ 研究報告(人文) 67号

5年3月30日発行。B5判75ページ。500円。(編集・

担当:藤井・瀬川)

藤井明広: 安政5年(1858), 相模国三浦郡公郷村永嶋氏の旅—「伊勢参宮道中記」の検討—: 1-12.

瀬川 渉・長谷川明香: 1960年代後半の横須賀市博物館における民俗資料所在調査—石渡友吉氏の活動から—: 13-32.

毛利邦彦・菊地勝広: 横須賀製鉄所スチームハンマーの製造者の解明: 33-75.

エ 資料集

資料集の刊行は行わなかった。

オ 博物館だより 15巻

最近の話題や展示の見どころ, 学芸員の研究内容などをわかりやすく紹介した。各号4ページ。無料。(担当:内船)

○15巻1号 12月20日発行 編集:山本
巻頭特集 特別展示「黒潮のめぐみ—海流が運んだ生き物と文化—」(1), 古文書の取扱と「くずし字体験コーナー」の設置(2), 黒潮ののってたどり着いた植物たち(3), 開館20周年! ヴェルニー記念館, 冬の天神島(4)

○15巻2号 4年3月25日発行 編集:内船
巻頭特集 企画展示「牧野富太郎がみつめた植物—植物標本が語るもの—」(1), 横須賀製鉄所副首長ティボディエの家 ①—調査と発見—(2), 三浦半島に再出現したシルビアシジミ(3), 地殻ひずみ計の撤去 馬堀自然教育園, 春は海藻の季節 天神島臨海自然教育園(4)

カ 特別展示解説書 18「黒潮のめぐみ—海流が運んだ生き物と文化—」

7月24日発行。A4判54ページ。400円。(担当:萩原・瀬川)

キ その他

(ア) 缶バッジ

販売用のオリジナルデザインの缶バッジを制作した。直径32mm。7月制作：12種類（浜風、陸奥、不知火、コクワガタ、カブトムシ、ゲンジボタル、ソラスズメダイほか、クマノミ、レンゲウミウシ、コモンウミウシ、すかぞう、ヴェルニー記念館）、12月制作：1種類（ヴェルニー記念館）。3月制作：13種類（浜風、萩風、不知火、コクワガタ、カブトムシ、オオシマザクラ、アオウミウシ、シロウミウシ、ペるり、スズメバチ、ナウマンゾウA、同B、博物館ロゴ）。各50円。（担当：内船・山本）

(イ) 缶バッジマグネット

販売用のオリジナルデザインの缶バッジマグネットを制作した。直径38mm。5種類（陸奥、アオウミウシ、博物館ロゴ、オオシマザクラ、ゲンジボタル）。各100円。（担当：内船）

(ウ) 和ハンカチ

特別展示に合わせてオリジナルデザインの手ぬぐい生地ハンカチを作製した。350円。（担当：萩原・山本）

(エ) クリアファイル

企画展示に合わせてオリジナルデザインのクリアファイルを作製した。A4サイズ。100円。（担当：山本）

(5) 共催・協力事業

ア 横須賀市・横須賀市教育委員会等主催

○里山の環境保全・活用事業

年間、横須賀市環境部自然環境共生課への協力。本館ほか。（担当：萩原・内船・山本）

○ホテル館リニューアル準備

年間、協力。ソレイユの丘。（担当：内船）

○「田浦コミセン講座」

6月14日、田浦コミュニティセンター主催、本館。（担当：山本）

○いきもの調査隊（身近な自然の保全とふれあい推進事業）

6月5日・9月23日、横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催。「春の観察会」「秋の観察会」として水辺を中心とした植物および昆虫を観察した。横須賀市長坂（沢山池緑地）。（担当：内船・山本）

○「前田川リバーウォッチング」

7月30日、横須賀市河川・傾斜地課主催。（担当：萩原）

○「よこすか海洋クラブ」

8月10日、港湾空港技術研究所、8月14日、横須賀海上保安部、10月1日、八景島シーパラダイス、横須賀市経済企画部都市戦略課主催。（担当：萩原）

○特別展「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」

前年度～9月、特別展閉館および貸出史料返却まで協力。横須賀美術館主催（神奈川県立金沢文庫共催）「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」展の展示企画・史料貸出、図録執筆などに協力。（担当：藤井・瀬川・菊地）

○景観指定樹木調査

9月21日、10月13日、学校管理課・まちなみ景観課の協力事業として、沢山小学校と追浜中学校において調査を行った。（担当：山本）

○よこすか子ども発明展

9月、協力。横須賀市教育委員会学校教育指導課主催。市内小学校の発明作品の展示。作品の集約および審査も博物館で実施し、9月10・11日に講堂にて展示した。（担当：内船）

○よこすか近代遺産ミュージアム 新作シアター制作

9月～5年3月。協力、ティボディ邸内。（担当：藤井）

○長井ベース（仮）展示準備協力

12月～5年3月、協力。ソレイユの丘。（担当：内船、自然）

○自然環境講演会（自然環境推進事業）

5年1月22日、横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催。「黒潮が運んだ自然」をテーマに、京都大学大学院教授の瀬戸口浩彰氏と萩原が講演を行い、内船を加えた3人でトークセッションを行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から定員を減らしZoomによるWeb配信を行った。会場参加者39人、Web配信参加者19人。みんなの理科フェスティバルの関連講演会としても位置付けた。本館講座室。（担当：内船・萩原）

○「大津エルダー学級」

5年2月3日、大津コミュニティセンター主催、大津コミセン。（担当：山本）

○ポスター発表「猿島について調べたこと」

3月9日～17日、田戸小学校5年生、館内。（担当：萩原）

イ 市内団体・機関等

○横須賀ブックミュージアム

4月2日、協力。横須賀ブックミュージアム実行委員会主催。3年ぶりの開催に際して、第12回おでかけ博物館を出展。文化会館。（担当：内船）

○モニタリング調査「天神島・笠島及びその周辺水域」

6月23日、9月28日、12月16日、3月30・31日、立ち合い。大楠漁業協同組合主催。天神島・笠島及びその周辺水域。（担当：萩原）

○「磯の生物観察会」講師

8月2日、観音崎自然博物館主催、天神島臨海自然教育園。（担当：萩原）

○「黒潮の恵み」講演会

10月12日, 16ミリ試写室主催, 中央図書館, (担当: 萩原)

○うわまつり

10月8日, 協力. 上町イベント実行委員会主催. 第13回おでかけ博物館を出展. 中里商店街. (担当: 内船)

○YOKOSUKA ART CENTER「石原延啓 横須賀異界巡り -deer man 祀りごと -」

12月1日～12月25日, 横須賀市上町にあるYOKOSUKA ART CENTER・大津諏訪神社, 石原延啓氏の展覧会に横須賀の民俗や地域性の観点から助言と対談イベントを開催. (担当: 瀬川)

ウ 市外団体・機関等

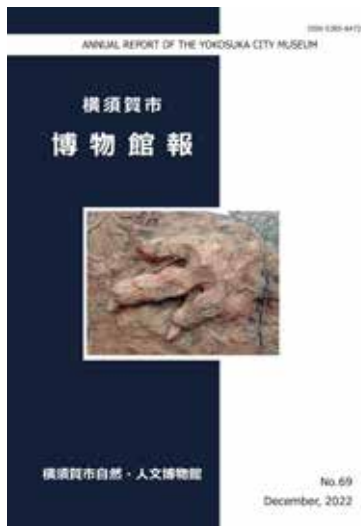
○「ウミウシの観察会」

6月18日, (財)水産無脊椎動物研究所主催, 天神島臨海自然教育園. (担当: 萩原)

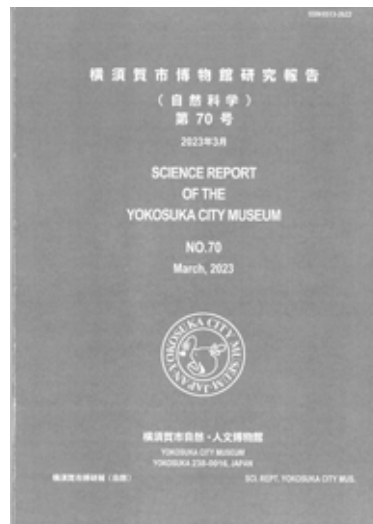
○「観察会・天神島へ行こう！」

7月3日, 神奈川県青少年センター, 天神島臨海自然教育園. (担当: 萩原)

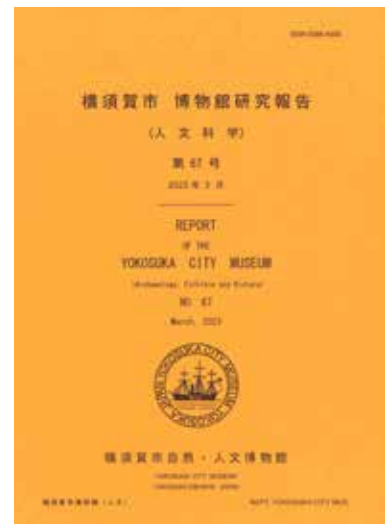
《出版物表紙》



館報 69号 (※ PDFのみ発行)



研究報告 (自然科学) 70号



研究報告 (人文科学) 67号



特別展示解説書 18「黒潮のめぐみ -海流が運んだ生き物と文化-」

《行事案内リーフレット》



2022年4月～8月(表)



2022年4月～8月(裏)



2022年9月～2023年3月(表)



2022年9月～2023年3月(裏)

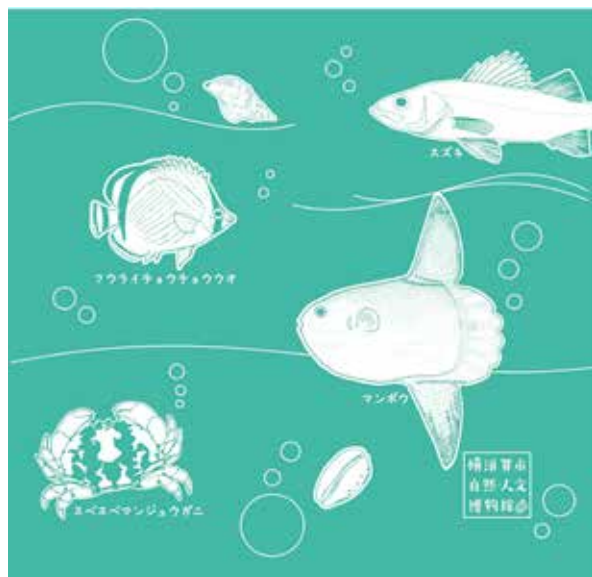
《制作物(特別展関連グッズ)》



クマノミ(缶バッチ)



ソラスズメダイ(缶バッチ)



和ハンカチ

《制作物（缶バッジ）》



すかぞう



ゲンジボタル



コクワガタ



カブトムシ



陸奥



不知火



レンゲウミウシ



コモンウミウシ



ヴェルニー記念館



浜風

《制作物（缶マグネット）》



陸奥



アオウミウシ



ゲンジボタル



オオシマザクラ



博物館ロゴ

(6) 学校教育等指導・対応**ア 研究指導**

○自由研究指導

4月9日・1月4日, セミ, 関東学院大学付属六浦中学校1年生1人. 本館. (指導: 内船)

8月11日・29日, セミ, 横浜市立南高等学校附属中学校3年生1人. 本館. (指導: 内船)

8月23日, 甲虫, 横浜市磯子区内小学校4年生1人. 本館. (指導: 内船)

8月27日, セミ, 横須賀市立高坂小学校4年生1人. 本館. (指導: 内船)

○神奈川県立横須賀高等学校スーパーサイエンスハイスクール (SSH) プリンキピア I

年間, 本館ほか, 神奈川県立横須賀高等学校1学年10人 (担当: 内船)

「ユビナガコウモリの生態調査と食餌昆虫調査」, 6人, 指導: 内船

「三浦半島の植物の多様性」, 4人, 指導: 山本

○神奈川県立横須賀高等学校スーパーサイエンスハイスクール (SSH) プリンキピア II.

年間, 本館ほか, 県立横須賀高等学校2学年13人 (担当: 内船)

「博物館見学者の閲覧行動調査」, 5人, 指導: 柴田

「天神島のタイドプール魚類相調査」, 3人, 指導: 萩原

「平和中央公園と博物館とをつなぐ自然・歴史の学習教材の開発」, 4人, 指導: 内船・山本

「ユビナガコウモリの食性調査」, 1人, 指導: 内船 (理科ハウスとの共同指導)

○神奈川県立横須賀高等学校スーパーサイエンスハイスクール (SSH) プリンキピア III

年間, 本館, 天神島臨海自然教育園, 神奈川県立横須賀高等学校3学年5人 (担当: 内船)

「環境 or 遺伝 ハマダンゴムシの斑紋パターンに影響するのは?」, 5人, 指導: 山本・内船

○海綿動物の同定・研究指導

9月29日, 館内, 公文国際学園高等部1年生. (担当: 萩原)

○アメフラシの同定・飼育研究指導

5年1月14日, 本館, 麻布大学4年生. (指導: 萩原)

○卒業論文指導

年間, 本館, 明治大学4年生. (指導: 菊地)

10月14日, 信州大学理学部4年生1人. 本館および観音崎公園. (指導: 内船)

○大学院生研究協力

5月24日, 東京都立大学博士課程3年生1人. 本館.

(指導: 内船)

○修士論文・研究指導

年間, 館内, 東京工業大学大学院生. (指導: 菊地)

○博士論文・研究指導

年間, 館内, 東京大学大学院生. (指導: 菊地)

○博士論文研究相談・聞き取り調査対応

9月28日ほか, 館内, ノースカロライナ大学チャペルヒル校大学院生. (指導: 菊地)

イ 授業・講義

○幼稚園講話

6月29日, 大楠幼稚園, 「ツバメのはなし」, 園内. (担当: 萩原)

○小学校2学年生活科

4月27日. 横須賀市立大塚台小学校, 「校庭の生きもの・春」, 校内. (担当: 山本・内船)

10月14日. 横須賀市立津久井小学校, 「秋の植物」, 本館・平和中央公園. (担当: 山本・内船)

○小学校3学年理科

6月16日. 横須賀市立浦郷小学校, 「カイコの飼育」, 校内. (担当: 内船)

○小学校4学年理科

横須賀市立小原台小学校, 4月22日. 馬堀自然教育園. (担当: 山本・柴田)

○小学校5年総合的な学習

9月30日, 森崎小学校, 「磯の生きもの観察」, 天神島. (担当: 萩原)

○小学校6学年総合的な学習の時間

4月21日・6月15日・11月4日, 横須賀市立走水小学校, 「ホテルの観察と環境整備」, 校内. (担当: 内船)

○小学校6学年理科

6月2日. 「三浦半島の地層」, 田園調布雙葉小学校, 本館. (担当: 柴田)

10月13日. 「大地のつくり (地層の観察)」, 横須賀市立走水小学校, 観音崎. (担当: 柴田)

11月10日. 横須賀市立大津小学校, 横須賀市三春町. (担当: 柴田)

○小学6年生職業講話

9月15日, 城北小学校, 校内. (担当: 萩原)

○中学校職業講話

6月4日, 常葉中学校2年, 校内. (担当: 萩原)

11月2日, 川崎市立塚越中学校2年, 校内. (担当: 内船)

5年3月14日, 横浜市立茅ヶ崎中学校2年, 校内. (担当: 萩原)

○高校生研究指導

5年3月9日, 実験手法について, 追浜高等学校1年生1人. メール. (指導: 内船)

○高校生講義

6月4日, 県立生田高校「磯の生き物観察会」天神島. (担当: 萩原)

11月22日, 「海洋生物について」, 県立海洋科学高校2年, 天神島. (担当: 萩原)

12月8日. 「深海から生まれた三浦半島」解説, 創価高等学校2年, 本館. (担当: 柴田)

○大学学芸員課程等

5月22日, 立正大学学芸員課程, 本館. (担当: 藤井)

6月11日. 日本大学生物資源科学部, 「博物館実習Ⅰ」, 展示室およびバックヤード等をオンラインで解説した. 本館. (担当: 内船・柴田・萩原)

9月13日, 9月15日. 立教大学学芸員課程, 本館. (担当: 藤井・萩原・柴田)

11月5日, 神奈川大学, 本館 (担当: 内船)

11月27日. 東海大学, 「社会教育実習」, 「横須賀市自然・人文博物館の地域における活動」について講義した. 本館. (担当: 内船)

12月10日. 帝京平成大学, 学芸員課程, 「森のさんぽとクリスマスクラフト」見学と本館バックヤードを解説. 本館. (担当: 山本・柴田)

ウ 非常勤講師

○北里大学, 「博物館概論」, 4月11日～8月31日. (担当: 萩原)

○神奈川大学, 「博物館経営論」「博物館展示論」, 4月～3月, 神奈川大学みなとみらいキャンパス・横浜キャンパス. (担当: 瀬川)

○信州大学, 「博物館実習Ⅰ」, 5月～6月, 信州大学旭キャンパス. (担当: 内船)

○立教大学, 「博物館教育論A」・「博物館教育論B」
9月～3月, 池袋キャンパス (担当: 藤井)

○神奈川大学, 「博物館教育論」10月～1月, 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス. (担当: 内船)

エ 見学・相談・質問対応

○横須賀市立浦郷小学校5年生「総合的な学習(動物に関する質問)」10月12日, 電話対応. (担当: 萩原)

○横須賀市立大津中学校2年生「横須賀の動物に関する質問」12月6日, 館内. (担当: 萩原)

オ 職場体験指導

7月30日・8月7日, 県立横浜水取沢高等学校社会科1人. (指導: 柴田・内船・瀬川・金満, 担当: 内船)

8月5日・12日・20日, 県立新羽高等学校社会科1人. (指導: 萩原・柴田・内船・山本・瀬川・金満, 担当: 内船)

カ 博物館実習

○8月16日～26日(22日を除く), 10人. 本館・馬堀自然教育園・天神島臨海自然教育園・ヴェルニー記念館. 実習生所属大学等: 神奈川大学・聖心女子大学・筑波大学・立教大学・日本大学・鶴見大学・清泉女子大学・東京工芸大学. (指導: 菊地・萩原・柴田・内船・山本・瀬川・藤井. 担当: 内船)

○9月10日・14日・15日・17日～19日・21日・22日, 1人. 本館・天神島臨海自然教育園. 関東学院大学. (指導: 菊地・萩原・柴田・内船・山本・藤井, 担当: 内船)

(7) 学校教育以外の指導・対応

ア 委員等・市民団体・会議等協力

○近代歴史遺産活用事業推進協議会, 委員. 横須賀市文化振興課, 年間 (担当: 柳井・菊地)

○横浜市ミヤコタナゴ保護育成検討会, 専門委員. 横浜市教育委員会, 年間 (担当: 萩原)

○三浦半島活断層調査会, 調査研究員. 年間 (担当: 柴田)

○逗子市池子の森運営会議, 顧問. 逗子市緑政課, 年間 (担当: 内船)

○環境教育・環境学習ネットワーク会議, 委員. 横須賀市環境政策部, 年間 (担当: 内船)

○三浦半島昆虫研究会, 編集委員・例会幹事, 年間 (担当: 内船)

○谷戸の指標生物プロジェクト, 直翅類担当, NPO法人三浦半島生物多様性保全, 年間 (担当: 内船)

○熊谷市史編さん委員会(近世部会), 専門調査員. 埼玉県熊谷市, 年間 (担当: 藤井)

○相模湾海洋生物研究会, 運営委員, 年間 (担当: 萩原)

イ 指導・講師

(ア) 講師

○「苔テラリウム作り教室」

6月27日, 東京都日野原都民の森主催, 東京都檜原村. (担当: 山本)

○「はじめてのシダ観察」

7月1日, 東京都日野原都民の森主催, 東京都檜原村都民の森. (担当: 山本)

○理科基礎技術研修講座

5月17日. 横須賀市教育研究所主催. 横須賀市教育



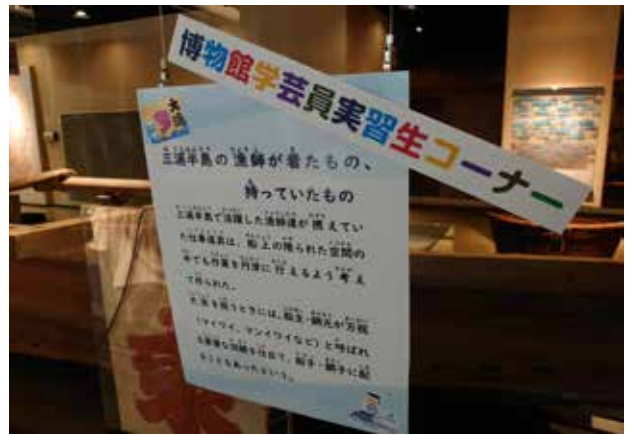
博物館実習生による課題成果の発表（自然部門）



博物館実習生による課題成果の発表（人文部門）



博物館実習生制作による解説パネル（自然部門）



博物館実習生制作による解説パネル（人文部門）

研究所。（担当：内船）

7月27日．横須賀市教育研究所主催，天神島臨海自然教育園，（担当：萩原）

5年2月27日．横須賀市教育研究所主催．観音崎．（担当：柴田）

○「図書館でわくわく『ムシ』たんけん」

8月3日．横須賀市児童図書館主催．横須賀市児童図書館．（担当：内船）

○教員研修

8月4日．町田市教員研修．本館．（担当：柴田・内船）

○みどりの愛護のつどい記念植樹に伴う小学生現地指導

9月6日．自然環境共生課主催．平和中央公園．（担当：山本・内船）

○2022年度前期忍者・忍術講座「忍者学研究的の展開」

9月講座「幕末の改革組合村と「探索御用」

9月24日．国立大学法人三重大学人文学部主催．三重県伊賀市ハイトピア伊賀．（担当：藤井）

○課題解決コーナー関連行事講演会「横須賀の地層と断層」

10月15日．横須賀市中央図書館主催．横須賀市中央図書館．（担当：柴田）

○自然観察と植物クラフト

11月23日．武山地域運営協議会主催．武山コミュニティセンター．（担当：山本・内船）

○市内教員対象オンライン研修

12月14日，本館．（指導：学芸員全員，担当：柳井・内船・瀬川）

○「猿島 観察会」

12月17日，かながわトラストみどり財団主催，猿島．（担当：山本）

○研修会「横須賀の地層」

5年1月14日，神奈川県退職公務員連盟横須賀支部主催，本館．（担当：柴田）

○「講演会 日仏交流の技術交換・研究交流拠点としての横須賀製鉄所」

5年3月10日，アンスティチュ・フランセ横浜，アンスティチュ・フランセ横浜．（担当：菊地）

○「土曜科学教室」

5年3月11日、横須賀市教育研究所主催。本館。(担当：内船・柴田・山本)

- 地学研修会『化学合成生物“シロウリガイ”化石と“公園・博物館”から学ぶ、地学基礎・科学と人間生活(地学領域)“神奈川の大地の形成と防災”教材作り～』

5年3月28日、神奈川県高等学校教科研究会理科部会主催、逗子市池子・本館。(担当：柴田)

(イ) 指導

- 「水辺公園の昆虫類」

4月22日、6月4日、7月2日、8月6日、5年3月4日、水辺公園友の会主催。光の丘水辺公園(担当：内船)

- 「猿島の虫について」

10月12日、猿島専門ガイド協会主催。猿島。(担当：内船)

- 「猿島の漂着物の観察」

10月12日、猿島専門ガイド協会主催。猿島。(担当：萩原)

- 河川水質調査指導

11月16日、横須賀市地域水質保全協議会主催、前田川。(担当：萩原)

- 「職員5年次研修(西海岸地区のPR企画)」

5年1月13日、天神島。(担当：萩原)

- 「海域環境について」

5年3月30日、南関東防衛局管理部、本館。(担当：萩原)

ウ 見学対応等

- 札幌市議会市議団視察

5月27日、館内。(担当：柳井・金満・萩原・菊地)

- まちの診療所つるがおか医院一行「常設展示解説」

6月1日、館内。(担当：菊地)

- 鹿児島県瀬戸内町教育委員会文化財担当視察

6月10日、館内。(担当：菊地)

- フランス理工科学校司書(エコール・ポリテクニク)

8月7日、ヴェルニー記念館・本館館内(担当：菊地)

- 宮崎県立総合博物館職員視察

8月31日、「特別展示 黒潮のめぐみ」(担当：萩原)

- ニューヨーク州立大准教授・防衛大学校職員・新聞記者・東洋大学名誉教授一行

9月2日、「三木忠直氏旧蔵資料実見・研究」, 館内。(担当：菊地)

- よこすかシティガイド協会主催行事参加者一行

9月29日、「常設展示解説」, 館内。(担当：菊地)

- 新聞記者・東洋大学名誉教授一行

10月6日、「三木忠直氏旧蔵資料実見・研究」, 館内。(担当：菊地)

- 三浦半島の文化を考える会主催行事参加者一行

5年3月15日、「常設展示解説」, 館内。(担当：菊地)

(8) 報道発表・取材等協力

ア 報道発表

日付	表題(事業担当者)	担当
7月1日	展示解説アプリ「ポケット学芸員」の導入について(内船)	峯山・内船
7月22日	特別展示「黒潮のめぐみー海流が運んだ生き物と文化」の開催について(萩原)	峯山・萩原
5年3月17日	企画展示「牧野富太郎が見つめた植物ー植物標本が語るもの」の開催について(山本)	峯山・山本

計3件

イ 取材対応・出演(新聞・雑誌・テレビ)

対応内容もしくは番組・記事表題(放映・掲載日)	報道機関等	取材等対応日	担当
「世界の何だコレ!? ミステリー」. ヴェルニー記念館の取材および当館所蔵資料の撮影.	フジテレビ	4月3日	菊地
「魅力ある美術館・博物館」の特集記事に関連して, 本館展示, 博物館概要を取材(4月29日).	毎日新聞	4月7日	萩原・菊地
旧海軍航空技術廠に関する取材.	神奈川新聞	4月14日	菊地
「潜在能力テスト」. 海洋生物に関するクイズの問題内容についての確認.	フジテレビ	4月26日, 4月28日	萩原
「さわやか自然百景」. 昆虫の同定.	NHK	4月27日	内船
「さわやか自然百景」. 伊豆半島で繁殖が確認されたクマノミについて.	NHK	4月28日	萩原
「ちょうどいいラジオ」. 天気予報のコーナーで旬の話題としてホテルを取り上げるための取材.	FMヨコハマ	5月11日	内船
BSプレミアム特別番組. テレビ番組制作に伴う横須賀製鉄所の歴史について取材. 学芸員の番組出演.	NHK	5月17日, 5月26日, 6月1日, 6月24日, 7月3日, 7月4日	菊地
「さわやか自然百景」. 伊豆半島の海洋生物の映像による同定依頼.	NHK	5月17日	萩原
横須賀海軍航空技術廠と桜花に関する質問・相談	読売新聞	5月25日	菊地
横須賀海軍航空技術廠と桜花に関する質問・相談	神奈川新聞	5月25日	菊地
企画展示新着資料展2022の電話取材	毎日新聞	5月25日	菊地
「紀伊・房総くろしお物語」. 浦賀の干鰯問屋の名残について.	毎日新聞	5月26日	瀬川
「ちょうどいいラジオ」. 天気予報のコーナーで旬の話題としてカタツムリを取り上げるための取材.	FMヨコハマ	5月27日	内船
「潜在能力テスト」. 「鼻腔」と「鼻孔」生物学用語の違いについて, 「魚の嗅覚」「タコの墨」などについて.	フジテレビ	6月3日, 6月8日	萩原
「ちょうどいいラジオ」. 田んぼの生き物について	FMヨコハマ	6月8日	内船
「さわやか自然百景」. 葛西臨海公園で撮影された魚類・甲殻類の同定.	NHK	6月14日	萩原
「さわやか自然百景」. 葛西臨海公園の昆虫3種の同定.	NHK	6月16日	内船
BSプレミアム「ワイルドライフ」. 南アフリカ・ワイルドコースト周辺で撮影された魚類について	NHK	6月16日	萩原
「ちょうどいいラジオ」. セミの幼虫について	FMヨコハマ	6月22日	内船
BSプレミアム「ワイルドライフ」. イワシの回避運動と大型魚類から発せられる圧力波の関係について.	NHK	6月28日	萩原
「さわやか自然百景(長野・北八ヶ岳)」. 北八ヶ岳で見られた虫について(7月17日).	NHK	7月2日	内船
博物館行事横須賀歴史物語の新聞記事掲載に伴う取材	読売新聞	7月5日	菊地
BSプレミアム「ワイルドライフ」. カツオにとってメジロザメは天敵と言えるか.	NHK	7月5日	萩原
「さわやか自然百景」. 京都で撮影されたカブトエビについて.	NHK	7月5日	萩原
「ちょうどいいラジオ」. 蚊柱について	FMヨコハマ	7月5日	内船
「ミュージアムナビ」. 特別展示「黒潮のめぐみ」のワンポイント紹介文の作成依頼.	神奈川新聞	7月6日	萩原
「さわやか自然百景」. 京都で撮影されたスッポンについて.	NHK	7月6日, 7月12日	萩原
「さわやか自然百景」. 水生昆虫の同定.	NHK	7月7日	内船
特攻兵器「伏龍」について.	RKB毎日放送	7月13日	磯口・菊地
「しゃべくり007」. バリーの肖像画について.	日本テレビ	7月13日	峯山・菊地
「クイズ!あなたは小学5年生より賢いの?」. エラと水管系の違いについて.	日本テレビ	7月13日	萩原

博物館行事「横須賀歴史物語2」の取材	神奈川新聞	7月16日	菊地
特別展示「黒潮のめぐみ」の紹介用の画像提供と展示内容について取材.	タウンニュース	7月17日	萩原
「ちょうどいいラジオ」. ヒグラシについて.	FMヨコハマ	7月21日	内船
「さわやか自然百景」. 山形県の山岳域の昆虫の同定.	NHK	7月26日, 7月30日	内船
特別展示「黒潮のめぐみ」について会場取材と電話による追加取材.	神奈川新聞	7月28日, 7月29日	萩原
特別展示「黒潮のめぐみ」について取材.	はまかせ新聞	7月29日	萩原
「さわやか自然百景」. 青森県高所の昆虫等陸上無脊椎動物4種の同定.	NHK	8月3日	内船
「さわやか自然百景」. アブラムシについて.	NHK	8月6日	内船
「さわやか自然百景」. 鹿児島県錦江町の昆虫2種の同定.	NHK	8月12日	内船
JCOMニュース. 「まだ間に合う夏休み自由研究」として特別展示「黒潮のめぐみ」とトピックス展示「カブトムシ」を紹介するため, Zoomで取材(8月16日).	JCOM	8月14日	萩原・内船
月刊情報紙「創年日日タイムズ」. 歌舞島(三浦市白石町)はいつ陸地になったのか, について取材	神奈川新聞	8月30日	柴田
「高校生クイズ」. インターネットウミウシについて.	日本テレビ	9月2日	萩原
視聴覚教材「横須賀・横浜・川崎から見た東京湾170年」. 米軍基地での取材	JICA横浜	9月5日, 9月6日	菊地
「さわやか自然百景」. 広島県深山で撮影された昆虫8種の同定と一部の生態, 昆虫の分布規定要因について.	NHK	9月8日	内船
「カナガワニ海」. 特別展示「黒潮のめぐみ」を中心に, 博物館で紹介している神奈川の海について電話と現地取材(9月30日).	TVK	9月13日, 9月21日	萩原
カマクラキクイムシについて書いたメルマガ記事について.	毎日新聞	9月22日, 9月27日	内船
「ちょうどいいラジオ」. アオスジアゲハの蛹やチョウ類の越冬について.	FMヨコハマ	9月27日	内船
黒いバタについて.	神奈川新聞	10月5日	内船
黒潮の大蛇行による三浦半島の死滅回遊魚の出現種への影響について(11月7日).	神奈川新聞	10月26日	萩原
特別展示「黒潮のめぐみ」について(11月25日).	読売新聞	11月18日	萩原
「鉄腕ダッシュ」. ウミウシ類の餌生物について.	日本テレビ	12月2日	萩原
「ちょうどいいラジオ」. ミノムシについて(12月7日).	FMヨコハマ	12月6日	内船
「ちょうどいいラジオ」. オオミノガについて(12月14日).	FMヨコハマ	12月14日	内船
広報よこすか2月15日市政記念日特集号. 横須賀製鉄所について.	広報よこすか	12月21日	菊地
春の七草について.	はまかせ新聞	12月23日	山本
シュンカンハゼの名の由来について.	読売新聞	12月23日	萩原
「報道ステーション」. 三浦大根(ミウラダイコン)について.	テレビ朝日	5年1月6日	山本
「鉄腕ダッシュ」. マハゼの生態, 特に繁殖行動について.	NHK・日本テレビ共同企画	5年1月12日, 1月19日, 1月26日	萩原
「クイズ!あなたは小学5年生より賢いの?」. イノシシの分布について.	日本テレビ	5年1月12日	萩原
「ちょうどいいラジオ」. 春の虫について.	FMヨコハマ	5年1月15日	内船
「Fridayかながわ」. トピックス展示「3Dスキャンで見る横須賀近代化遺産」の取材(2月10日).	読売新聞	5年2月3日	菊地
「ダーウィンが来た!」. 東京湾に生息するハゼまたは繁殖行動に特色のあるハゼの種について.	NHK	5年2月22日	萩原
首都圏ネットワーク. 博物館の収蔵庫について.	NHK	5年3月5日	瀬川
(番組未定). 東京湾で撮影されたコチ科魚類の同定.	NHK	5年3月5日	萩原
「ダーウィンが来た!」. 昆虫の幼虫の同定.	NHK	5年3月7日	内船
企画展示「牧野富太郎が見つめた植物」について.	タウンニュース	5年3月22日	山本

計66件

ウ 画像や映像の貸出・掲載

対応内容もしくは番組・記事表題(放映・掲載日)	報道機関等	対応日	担当
「につぼん!歴史鑑定」. 三浦按針胸像の画像データ提供.	TBSテレビ	6月1日	菊地
豊島小学校の古写真の画像データの提供	タウンニュース	6月9日	菊地
当館所蔵横須賀製鉄所写真(マノガ家伝来資料, 市重文)の画像データの提供	読売新聞	6月10日	菊地

令和6年度版 小学校理科教科書「小学校理科教科書」, 「Web コンテンツ」に当館の URL およびサムネイル (博物館外観画像) の掲載.	大日本図書	6月14日	峯山
「噂の! 東京マガジン」, 「歌川広重画 山海見立相撲 相模浦賀」の画像提供	TBS テレビ	6月23日	峯山
KADOKAWA [角川の集める図鑑 GET! 絶滅動物]. ナウマンゾウ下あご化石レプリカ画像提供.	(株) 童夢	8月5日	柴田
令和6年度版 小学校理科教科書「たのしい理科」WEB コンテンツ, 神奈川県 の地層の写真提供と解説文執筆	大日本図書	9月13日	柴田
「こどもサバイバル」第2巻レジャー編(自然の中で起きる危険への対応), ヒョウモンダコ生態写真の提供.	(株) 童夢	10月19日	萩原
月刊 News がわかる特別編「徳川家康がわかる」, 三浦按針像の写真の提供	毎日新聞	10月27日	菊地
「サライ」2月号, 三浦按針像の写真提供.	小学館	11月2日	峯山
黒田泰介・亀井泰治著「軍港都市横須賀・下町地区の都市形成 防火建築帯によるまちづくり」, 横須賀製鉄所写真ほか当館所蔵資料8点の画像データの提供.	丸善	11月13日	菊地
「今夜はナゾトレ」, 大町谷東遺跡滑石製温石の画像提供.	フジテレビ	12月4日	瀬川
「順天堂の開祖幕末の蘭医学者 佐藤泰然～没後150年～」	ケーブルネット296	12月11日	峯山
広報よこすか2月15日市政記念日特集号, 横須賀製鉄所写真ほか提供.	横須賀市	12月21日	菊地
フリーガイドブック「横須賀人」, 島崎藤村の関係の古文書, 運慶展図録, 浦賀の錦絵の画像提供.	ABC アーク	5年1月5日, 1月19日	藤井
「有吉の世界同時中継」, 野島掩体壕写真の提供	テレビ東京	5年1月20日	菊地
「道との遭遇」, 田浦港町写真の提供	CBC テレビ	5年1月21日	菊地
町田明広編「幕末維新史への招待」, 横須賀製鉄所製図工長メラング家伝来資料(市重文)の掲載.	山川出版社	5年2月21日	菊地

計17件

7 収集調査研究事業

(1) 調査・研究

ア 調査・研究テーマ

- 三浦半島淡水生物調査, 年間(担当: 萩原)
- 三浦半島沿岸生物調査, 年間(担当: 萩原)
- 天神島タイドプール魚類調査, 年間(担当: 萩原)
- 江ノ島潮間帯動物相調査, 年間(担当: 萩原)
- 三浦半島の地質調査, 年間(担当: 柴田)
- 「フォトグラメトリーを用いた地層の3-Dモデル化と地層の動的・参加型の展示開発」科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究課題(JP21K01010), 年間(担当: 柴田)
- 三浦半島昆虫相調査, 年間, 三浦半島(担当: 内船)
- 平和中央公園動植物調査, 年間, 平和中央公園(担当: 内船・山本)
- 「地域生物相の成立背景を考慮した通史展示への対応: 地域博物館リニューアルに向けて」科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究課題(JP21K01011), 年間(担当: 内船)
- 地域博物館連携に関する実践的研究, 年間(担当: 内船)
- 「ヤンバルトサカヤスデ対策調査」保健所生活衛生課所管事業, 年間(担当: 内船)
- 昆虫形態発生研究, 年間(担当: 内船)

- 「ホテル類現状調査」公園建設課所管事業, 5月～7月, 大矢部弾薬庫跡地(担当: 内船)
- 「自然環境調査に関する生物相調査(身近な自然の保全とふれあい推進事業)」自然環境共生課所管事業(担当: 萩原・内船・山本)
- 三浦半島植物相調査, 年間(担当: 山本)
- 三浦半島絶滅危惧植物調査, 年間(担当: 山本)
- 「広域分布種サクラソウ科ハマボスの花形態とポリネーター調査」共同研究, 年間(担当: 山本)
- 「里山環境モデル地区における生物相調査(里山的環境保全・活用事業)」自然環境調査に関する生物相調査(身近な自然の保全とふれあい推進事業)」自然環境共生課所管事業(担当: 萩原・内船・山本)
- 三浦半島の近代建築史・土木史調査 年間(担当: 菊地)
- 「横須賀製鉄所における中国経由でのフランス系建築技術と様式の導入に関する研究」科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究課題(18K04552) 年間(担当: 菊地)
- 三浦半島の民俗調査, 年間(担当: 瀬川)
- 国立歴史民俗博物館共同利用型共同研究, 裸潜水漁撈用具の地域差と伝播, 年間.(担当: 瀬川)
- 南関東地方における湯立神楽の基礎的研究, 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究課題(19K01218), 年間(担当: 瀬川)

- 三浦半島の文献史調査, 年間 (担当: 藤井)
- 旗本に関する研究, 年間 (担当: 藤井)
- 近世関東地域史論, 年間 (担当: 藤井)
- 横浜市ミヤコタナゴ保護育成状況調査, 11月7日 (担当: 萩原)

(2) 研究発表・執筆

ア 口頭発表等 (ポスター発表含む)

- 棚橋優花・渡邊謙太・山本薫・村上哲明・加藤英寿
2022. 広域分布種サクラソウ科ハマボッスの花形態と
ポリネーターの関係. 日本植物学会 第86回大会. 9
月. 京都大学. (口頭発表)
- 三井翔太・樽 創・林 千翔・柴田健一郎 2022. 耳石化
石から明らかとなった最終間氷期の古東京湾における
熱帯性魚類群集. 2022年度日本魚類学会年会. 9月
17日-9月20日. 大阪公立大学杉本キャンパス・オ
ンライン. (ポスター)
- 内船俊樹 2022. “身近な昆虫”を軸とした地域昆虫相の
比較. 日本昆虫学会第82回大会. 9月3日. (口頭発表)
- 内船俊樹 2023. 公園を「展示」する一隣接する公園と
博物館を接続する試み一. 第5回みんなの理科フェス
ティバル. 5年1月21・22日. 横須賀市自然・人文
博物館. (ポスター発表)
- 萩原清司 2023. 横須賀市佐島で観察・採集された深海
性の頭足類 (軟体動物門・頭足綱) ユウレイイカ. 第
5回みんなの理科フェスティバル. 5年1月21・22日.
横須賀市自然・人文博物館. (ポスター発表)
- 山本 薫・柿嶋 聡・長谷川秀三・堤 千絵. 2023. 三
浦半島にみられるヤマアジサイとガクアジサイの交
雑. 日本植物分類学会第22回大会. 5年3月. 千葉大
学. オンライン. (ポスター発表).
- 計6件

イ 論文等執筆

- 内船俊樹 2022. 横須賀市博物館とホテル研究 (特集・
ホテル最近の話題). 昆虫と自然, 57(7): 10-13. (6月).
- 内船俊樹 2022. “身近な昆虫”を軸とした地域昆虫相の
比較. 日本昆虫学会第82回大会講演要旨集, 48. (9
月).
- 小荒井千人・白井亮久・西田尚央・柴田健一郎・中田恒介・
松川正樹 2022. 初期“シジミ貝類”の群集構造と適応
戦略一下部ジュラ系の来馬層群と岩室層を基に一. 東
京学芸大学紀要自然科学系, (74): 123 - 140. (11月)
- 藤井明広 2023. 安政5年(1858), 相模国三浦郡公郷村
永嶋家の旅. 横須賀市博研報 (人文), (67): 1-12, p1-

12. (5年3月).

- 萩原清司 2023. 横須賀市荻野川から得られたカワリヌ
マエビ属の一種. 横須賀市博研報 (自然), (70): 81-82.
(5年3月).
- Matsukawa M. and Shibata K. 2023. Aptian-Albian
(Lower Cretaceous) ammonite assemblages of the
Miyako Group in the Sakiyama region, Miyako City,
Iwate Prefecture, northeast Japan. *Science Report of
the Yokosuka City Museum*, (79): 1-38. 5年3月.
- 毛利邦彦・菊地勝広 2023. 横須賀製鉄所設置スチーム
ハンマーの製造者の解明. 横須賀市博研報 (人文),
(67): 33-75. (5年3月).
- 西川湧馬・植田育男・萩原清司・伊藤寿茂・北嶋 円・
加登岡大希・藤田温真・崎山直夫 2023. 江の島の海
岸動物相Ⅷ. 神奈川自然誌資, (44): 89-100. (5年3月).
- 齋藤 理・内船俊樹 2023. 横須賀市における「オオア
オホソゴミムシ」(ゴミムシ科: ゴモクムシ亜科) の
記録の再検討. 横須賀市博研報 (自然), (70): 83-84. (5
年3月).
- 齋藤 理・内船俊樹 2023. 三浦半島におけるオオハ
ナノミ科2種の記録. 横須賀市博研報 (自然), (70):
85-86. (5年3月).
- 瀬川 渉・長谷川明香 2023. 1960年代後半の横須賀
市博物館における民俗資料所在調査. 横須賀市博研報
(人文), (67): 13-32. (5年3月).
- 柴田健一郎・小長谷美沙・新城竜一 2023. 福徳岡ノ場
2021年噴火起源軽石の漂着量とサイズの時間変化:
神奈川県天神島の例. 横須賀市博研報 (自然), (70):
39-51. (5年3月).
- 山本 薫 2023. 57年振りに発見された三浦半島産ハイ
ネズ *Juniperus conferta* Parl. (ヒノキ科). 横須賀市博
研報 (自然), (70): 87-88. (5年3月).
- 計13件

ウ 書籍等執筆

- 瀬川 渉 2022. 横須賀市自然・人文博物館一文化財収
蔵庫を増設する一. 金山善昭編 博物館とコレクション
管理, 252-259. (6月).
- 藤井明広 2022. 三浦一族をめぐる由緒と物語 - 相模国三
浦郡公郷村永嶋家の事例を中心に -, 解説 39-42. 横須
賀美術館・神奈川県立金沢文庫編 運慶 - 幕府と三浦一
族 -, 117-119, 121-124. (7月).
- 萩原清司・瀬川 渉 2022. 特別展示解説書 18「黒潮の
めぐみー海流が運んだ生き物と文化ー」. 特別展示解
説書, (18), 48ページ. 横須賀市自然・人文博物館. (7

月).

柴田健一郎 2022. 2-12-2 ラコリス構造. 伊藤 慎 (総編集) フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界:

77. 朝倉書店, 東京. (7月).

柴田健一郎 2022. 6-2 河川堆積相. 伊藤 慎 (総編集) フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界: 175-

178. 朝倉書店, 東京. (7月).

内船俊樹 2022 公園を「展示」する - 隣接する公園と博物館を接続する試み -. 全科協ニュース, 52(4): 11. (7月)

計 6 件

エ その他執筆

柴田健一郎 2022. 三浦半島のフィールドワークの拠点. 博物館で地学を学ぼう! (5) 横須賀市自然・人文博物館. 日本地質学会 News, 25 (5): 11-12. (5月)

柴田健一郎 2022. 観音崎の地層. よこすか ECO 通信, (45): 4. 横須賀市, 環境教育・環境学習ネットワーク会議. (6月).

内船俊樹 2022. 横須賀で大発生したヤンバルトサカヤスデ. よこすか ECO 通信, (46):4. 横須賀市, 環境教育・環境学習推進懇話会. (9月)

内船俊樹・中村進一 2022. 表紙写真「クロマダラソテツシジミの交尾」. かまくらちょう, (99): 表紙裏. 三浦半島昆虫研究会. (10月).

萩原清司 2022. 死滅回遊する魚. よこすか ECO 通信, (47): 4. 横須賀市, 環境教育・環境学習ネットワーク会議. (12月).

藤井明広 2022. 新刊案内, 小田原近世史研究会編「近世地域史研究の模索—つながりの視点から—」. 史潮 (新 92 号), 歴史学研究会, 106-109. (12月)

瀬川 渉 2023. 第 70 回全国博物館大会に参加して. 神奈川県博物館協会会報, (94): 29-31. 神奈川県博物館協会. (5年3月)

柴田健一郎 2023. 米国カリフォルニア科学アカデミーの展示の特徴と来館者の展示閲覧行動. 神奈川県博物館協会会報, (94): 15-21. (5年3月).

内船俊樹 2023. (特集: かまくらちょう 100 号) 幹事・顧問からの一言. かまくらちょう, (100): 32-33. 三浦半島昆虫研究会. (5年3月)

内船俊樹 2023. マイ・ベスト昆虫写真 2021 各部門グランプリ作品. かまくらちょう, (100): 98-99. 三浦半島昆虫研究会. (5年3月)

山本 薫 2022. 春を告げるスマレ. よこすか ECO 通信 第 (48): 4. 横須賀市, 環境教育・環境学習ネットワーク会議. (5年3月).

藤井明広 2023. 新刊案内, 野本禎司「近世旗本領主支配と家臣団」(吉川弘文館, 2021). 関東近世史研究 (92). 関東近世史研究会. 90-92. (5年3月)

計 12 件

(3) 学術研究団体・会議等協力

○日本分類学会連合, 日本魚類学会代表. 日本魚類学会, 年間. (担当: 萩原)

○日本節足動物発生学会, 編集幹事, 年間. (担当: 内船)

○第 61 回社会教育研究全国集会, 第 17 分科会世話人, 4月~9月. (内船)

○日本植物分類学会, ニュースレター幹事, 年間. (担当: 山本)

○歴史学会, 理事 (編集担当). 昨年度~11月. (担当: 藤井)

○日本民俗学会第 18 回評議員選挙管理委員, 4月~10月. (担当: 瀬川)

8 分類整理保存事業

(1) 資料の寄贈・借用

ア 寄贈資料

- 貝類標本 一式 4月5日 木村英典 動物
- アゴアマダイ標本 1件 4月29日 岡部 久 動物
- オオジャコガイ標本 1件 匿名 5月10日 動物
- 貝類標本 一式 9月6日 國井 充 動物
- 岩石化石資料 17件 4月28日 中澤仁史 地球科学
- 足跡化石資料 4件 5月17日 松川正樹 地球科学
- タカハシホタテ 1件 5年2月14日 藤原郁美 地球科学
- サヌカイト 1件 5年2月17日 中山博子 地球科学
- ボーリングコア資料 1件 5年3月29日 関口太郎 地球科学
- 東芝ワープロ JW-R70F 11月26日 玉置哲男 民俗
- 絹織物 5年1月6日 中村清子 民俗
- 船箆筥ほか 一式 5年3月10日 幸保直人 民俗・歴史
- わんぱく相撲弓取式使用の弓 5年3月16日 民俗
- 牛車のカジ 5年3月17日 長谷川武 民俗
- 鴨居船模型 5年3月31日 若村たつ子・若村泰夫 民俗

イ 借用資料

- 画像3点 5年2月1日～7月22日 高知県立牧野植物園 植物
- 画像10点 5年2月1日～7月22日 東京都立大学牧野植物園 植物

(2) 登録資料 (括弧内は新規登録資料)

ア 自然科学資料

- 地球科学 6,306件 (28件)
 - 古生物資料 2,909件 (28件)
 - 岩石資料 935件 (0件)
 - 鉱物資料 326件 (0件)
 - 地質調査報告書 2,136件 (0件)
- 動物 95,696件 (103件)
 - 昆虫資料 36,414件 (1件)
 - 甲殻類資料 1,071件 (0件)
 - 軟体動物資料 9,859件 (1件)
 - 魚類資料 46,268件 (101件)
 - 両生爬虫類資料 587件 (0件)
 - 鳥類資料 984件 (0件)
 - 哺乳類資料 410件 (0件)
- 植物 79,359件 (316件)
 - 維管束植物 71,662件 (316件)
 - 藻類 4,676件 (0件)
 - 蘚苔類 58件 (0件)
 - 菌類 2,963件 (0件)

イ 人文科学資料

- 考古 84件 (0件)
- 歴史 413件 (0件)
- 登録銃砲刀剣類 18件 (0件)
- 民俗 739件 (5件)

ウ 図書資料

- 自然科学 100,243件 (505件)
- 人文科学 70,192件 (671件)

(3) 資料の利用

資料名	利用形態(用途)	利用日/期間	利用者(所属)	部門
ギフチョウ標本 100 点	貸出	4月1日	県立横須賀高校	動物
魚類標本(ムジナハゼ, フタホシハゼ, アベハゼ属の一種) 11 点	貸出	4月5日	藤原恭司(国立科学博物館)	動物
豊島資料小学校の歴史資料(古写真と映像)	貸出・掲載	4月27日, 9月10日	豊島小学校 150 周年実行委員会	歴史
考古資料	貸出・展示	4月27日, 7月8日	神奈川県立歴史博物館	考古
関東大震災関連写真資料	貸出・展示	4月27日, 7月22日	よこすかシティガイド協会	歴史
大浦山遺跡出土土器	撮影・掲載	5月11日	さいたま市	考古
岩石資料	閲覧	5月17日	松川正樹(東京学芸大学名誉教授)	地球科学
メラング家伝来の横須賀製鉄所写真資料	貸出・掲載	5月17日, 5月26日	横須賀市・富岡市	歴史
アンモナイト化石	閲覧・貸出	5月25日	池上 森(北海道大学)	地球科学
アマモ, タチアマモ画像 2 点	貸出	6月10日	埼玉県立自然の博物館	植物
三浦按針胸像	撮影・掲載	6月18日	浦賀コミュニティーセンター	歴史
萬願寺址出土の瓦, 古文書 10 点	貸出・展示	6月21日~9月7日	横須賀美術館	歴史
ブンブクウニの生痕化石, 三浦半島の岩石資料	貸出・展示	6月23日	田口公則(神奈川県立生命の星・地球博物館)	地球科学
萬照寺摩崖仏レプリカ, 薬王寺遺構出土の五輪塔	貸出・展示	7月1日~9月6日	衣笠観光協会	歴史
地質調査報告書	貸出	7月8日	横須賀市上下水道局技術部下水道管渠課	地球科学
弾琴男子椅座像・ガラス製勾玉	貸出・展示	7月19日~10月30日	大田区立郷土博物館	考古
映像資料「よこすかのあゆみ」	貸出・掲載	7月22日	横須賀市秘書課	歴史
考古資料閲覧	閲覧	7月24日	横須賀考古学会	考古
横須賀製鉄所関連写真資料	貸出	7月26日	エネルギー・資源学会	歴史
横須賀製鉄所関連写真資料	貸出	7月26日	神奈川歯科大学	歴史
シルクポートレート 8 枚, スーベニアショップの看板, 写真 4 枚, E M クラブ公演プログラム 2 冊	貸出(展示)	8月19日~5年1月6日	横須賀市美術館	民俗
考古資料閲覧	閲覧	9月19日	満願寺遺跡出土瓦研究会	考古
魚類標本(ハゼ科の一種) 19 点	貸出	10月29日	渋川浩一(ふじのくに地球環境史ミュージアム)	動物
地質調査報告書	貸出	11月9日	横須賀市上下水道局技術部下水道管渠課	地球科学
満願寺瓦ほか	貸出	9月22日~12月9日	神奈川県立金沢文庫	考古
満願寺瓦ほか	貸出	10月27日~11月27日	神奈川県立歴史博物館	考古
動物骨格標本(ホンダタヌキ, ニホンザル, ハト)	貸出	11月30日~12月24日	榎本 薫(横浜市立永田台小学校)	動物
考古資料閲覧	閲覧	12月17日, 12月18日	満願寺遺跡出土瓦研究会	考古
パイスケ, 天秤棒, 木槌	貸出	5年1月12日~2月1日	横須賀市立大塚台小学校	民俗
考古資料閲覧	閲覧	5年1月15日	満願寺遺跡出土瓦研究会	考古
考古資料閲覧	閲覧	5年1月15日	幸泉満夫(愛媛大学)	考古
炭火アイロン, 田下駄, 釜, おひつ, 練炭式コンロ, 蓑, お膳	貸出	5年2月8日~3月16日	横須賀市立岩戸小学校	民俗
槌, 炭火アイロン, ガンドウ, 昔の教科書, 蓑, パイスケ, 桶, 天秤棒, 一尺差し	貸出	5年2月16日~3月29日	横須賀市立小原台小学校	民俗

計 33 件

(4) 資料の保守・保存環境保全

ア 文化財害虫と空中浮遊菌類のくん蒸および調査

○燻蒸消毒

文化財収蔵庫・第3資料室・第1民俗資料室・第1歴史資料室において殺菌・殺虫効果のある燻蒸剤「アルプ」を使用した燻蒸をおこなった。調査研究室・大型資料室・展示室の一部においてピレスロイド系殺虫剤の空中噴霧による燻蒸を行った。いずれも効果判定材料である供試虫の致死率100%が認められた。6月25日～7月3日。(担当：瀬川・山本)

○調査

文化財収蔵庫・第3資料室・調査研究室・大型資料室・第1,第2民俗資料室・第1,第2歴史資料室・人文資料室・恒温恒湿室・資料整理室・考古資料室・視聴覚資料室・自然研究室・図書室・特別展示室・特別展示準備室・人文館展示室・自然館展示室において、インセクトトラップ・フェロモントラップを設置し、歩行性昆虫類やタバコシバンムシなどの文化財害虫の生息状況を調査した。各所でチャタテムシ類が捕獲され、一部では歩行性昆虫類も捕獲された。シバンムシ類の捕獲はほぼなかった。捕獲数が多い個所には、樹脂蒸散性防殺虫剤を設置した。7月2日～8月4日。(担当：瀬川・山本)

イ 国指定重要文化財スチームハンマーの保存環境測定

ヴェルニー記念館で保存・管理する国指定重要文化財スチームハンマーについて、その保存に影響する因子の特定及び今後の維持管理方法の検討データの収集のため、空気環境データを年2回測定した。

1) 測定場所

ヴェルニー記念館(東逸見町1-1)の室内外の計2地点。

2) 測定項目および方法

- ①濾過捕集による「浮遊粒子状物質 (SPM)」の重量濃度測定。
- ②ザノレツマン吸光光度法による「二酸化窒素」の濃度測定。
- ③濾過捕集による「粒子状酸性成分」濃度のイオンクロマト分析。

以上の3項目で、①,②は日中時間内の1時間値を1回、③は日中時間内の6時間値を1回測定した。

3) 測定結果

測定結果は「表 令和4年度測定結果一覧」のとおり。アルデヒドにおける不検出値は、「ホルムアルデヒド8以下、アセトアルデヒド5以下」で、粒子状酸性成分における不検出値は、「塩化物イオン0.069以下、その他0.17以下」とした。気象条件等も併せて記録した。

表 令和4年度測定結果一覧

	8月11日		5年2月11日		
	室内	室外	室内	室外	
天候	---	晴	---	晴	
気温(℃)	26	34	19	8	
湿度(%)	63	64	27	32	
風向	---	東	---	西	
風速(m/s)	---	1.7-2.0	---	3.0-4.5	
浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.002	0.004	0.004	0.004	
ホルムアルデヒド(ppb)	不検出	不検出	不検出	不検出	
アセトアルデヒド(ppb)	不検出	不検出	不検出	不検出	
酸性成分	塩化物イオン(μg/m ³)	3.7	6.6	2.9	8.0
	亜硝酸イオン(μg/m ³)	不検出	不検出	不検出	不検出
	硝酸イオン(μg/m ³)	0.76	1.1	0.51	1.1
	硫酸イオン(μg/m ³)	6.5	10.0	2.3	8.1

9 管理事業

(1) 施設利用

ア 団体による見学等利用

(ア) 学校教育関係

日付	学校・学年等	施設
4月3日	東京大学理学部地球惑星環境学科	本館
4月22日	横須賀市立小原台小学校	馬堀
4月22日	横須賀市立荻野小学校	天神島
4月29日	恵泉女学園中学・高等学校	天神島
5月6日	横須賀市立公郷小学校	本館
5月6日	横須賀市立浦賀小学校	ヴェルニー・本館
5月12日	横須賀市立豊島小学校	本館
5月13日	日本大学理工学部海洋建築工学科	天神島・本館
5月18日, 7月13日	シモゾノ学園国際動物専門学校	天神島
5月19日	横須賀市立逸見小学校	本館
5月26日	横須賀市立久里浜小学校	本館
5月31日	慶應義塾横浜初等部	天神島
6月1日	慶應義塾横浜初等部	本館
6月2日	田園調布雙葉小学校	本館
6月4日	神奈川県立生田高等学校	天神島
6月8日	帝京大学小学校	本館
6月8日	横須賀市立養護学校中学部	本館
6月9日	神奈川県立横須賀高等学校	本館
6月10日	横須賀市立神明中学校	本館
6月11日	横浜国立大学	本館
6月22日	横須賀市立神明小学校	本館
6月22日	横須賀市立馬堀小学校	馬堀
6月23日	神奈川県立横須賀高等学校	本館
7月8日	横須賀市立浦郷小学校	本館
7月16日	横須賀市立常葉中学校華道部	本館
8月12日	湘南学園中学校・高等学校	天神島
9月2日	横須賀市立汐入小学校	本館
9月22日	横須賀市立豊島小学校	本館
9月28日	横須賀市立大津小学校	本館
9月30日	横須賀市立森崎小学校	天神島
10月14日	横須賀市立津久井小学校	本館
10月18日	広島県立音戸高等学校	ヴェルニー
10月21日	中井町立井ノ口小学校	本館
10月21日	フェリス女学院中学校	天神島
10月26日	横須賀市立養護学校小学部	本館
11月2日	横須賀市立養護学校小学部	本館
11月4日	横須賀市立武山小学校	本館
11月15日	横須賀市立諏訪小学校	本館
11月17日	横須賀市立久里浜小学校	天神島
11月18日	横須賀市立望洋小学校	本館
11月18日	横須賀市立豊島小学校	本館
11月22日	横須賀市立田浦小学校	本館
11月22日	横須賀市立船越小学校	本館

11月22日	神奈川県立海洋科学高等学校	天神島
11月25日	横須賀市立城北小学校	本館
11月25日	横須賀市立田戸小学校	天神島
11月29日	横須賀市立桜小学校	本館
12月2日	横須賀市立小原台中学校	本館
12月7日	横須賀市立浦賀中学校	本館
12月10日	帝京平成大学学芸員課程	本館
12月18日	創価高等学校	本館
12月23日	陸上自衛隊通信学校	本館
5年1月17日	川崎市立南百合丘小学校	ヴェルニー
5年1月20日	ゆうゆう坂本相談教室	本館
5年2月2日	横須賀市立小原台小学校	馬堀
5年2月9日	横須賀市立神明小学校	本館
11月29日	横須賀市立桜小学校	本館
12月2日	横須賀市立小原台中学校	本館
12月7日	横須賀市立浦賀中学校	本館
12月10日	帝京平成大学学芸員課程	本館
12月18日	創価高等学校	本館
12月23日	陸上自衛隊通信学校	本館
5年1月17日	川崎市立南百合丘小学校	ヴェルニー
5年1月20日	ゆうゆう坂本相談教室	本館
5年2月2日	横須賀市立小原台小学校	馬堀
5年2月9日	横須賀市立神明小学校	本館
5年3月19日	神奈川県高文連社会科専門部	ヴェルニー
5年3月23日	横須賀市立長浦小学校	本館
5年3月29日	国土館大学理工学部理工学科	ヴェルニー

計 72 件, 73 回

(イ) 学校教育以外

日付	団体名	施設
4月2日, 3日 16日, 17日 29日, 30日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
4月21日, 29日	クラブツーリズム(株)	ヴェルニー
4月26日	LaLaLand 戸塚	本館
4月29日	日本キリスト教団 横須賀小川町教会	本館
5月1日, 14日 15日, 29日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
5月12日	小金井市民生委員児童委員協議会	本館
5月12日	しんわピノキオ保育ランド	天神島
5月19日, 27日	クラブツーリズム(株)	本館・馬堀
5月20日	しんわピノキオ保育ランド	本館
5月22日	いいだばし・えびす幼児教室	天神島
5月25日	大津幼稚園	本館
6月1日	まちの診療所つるがおか	本館
6月8日	ぎんのすずこども園	本館
6月14日	田浦コミュニティセンター	本館
6月15日	ぎんのすずこども園	本館

※ 馬堀：馬堀自然教育園，天神島：天神島臨海自然教育園，ヴェルニー：ヴェルニー記念館

6月16日	YBS (横須賀バイリンガルスクール)	本館
6月18日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
6月19日	森友	天神島
6月24日	杉並野草の会	天神島
6月19日	森友	天神島
6月24日	杉並野草の会	天神島
7月1日	杜ちゃいど園	天神島
7月2日, 3日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
7月3日	ボーイスカウト横須賀第15団ビーバー隊	馬堀
7月7日	横浜植物会	天神島
7月15日	かさまの杜保育園	天神島
7月17日	ボーイスカウト葉山第1団	天神島
7月17日	玉川台区民センター運営協議会	本館
7月20日	パンダ保育園	本館
7月20日	横須賀上町教会附属めぐみ幼稚園	天神島
7月21日	まぼりっ子クラブ	馬堀
7月26日	パンダ保育園	本館
7月28日	こども理科室 Manabo-Labo	天神島
7月31日	(公財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター	天神島
8月6日	ハートリンク放課後等デイサービス港南台	本館
8月9日	ぎんのすず保育園	本館
8月16日	横須賀学院小学校 YMCA キッズスクエア	本館
8月24日	パンダ保育園	本館
8月24日, 25日	コスモスインターナショナルスクール鎌倉校	本館
8月27日, 28日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
9月10日, 11日, 19日, 23日, 24日, 25日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
10月2日, 8日, 9日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
10月4日	生涯学習「西柴」	ヴェルニー
10月15日	旭ボランティアガイドの会	ヴェルニー
10月26日	追浜保育園	本館
11月9日	古河三水会防衛関係連絡会	ヴェルニー
11月10日	衣笠保育園	本館
11月12日	ハートリンク放課後等デイサービス富岡駅前	本館

11月16日	よこすかシティボランティア協会	ヴェルニー
11月22日	(一社)万延元年遣米施設子孫の会	本館
12月24日, 25日	早稲田こどもフィールドサイエンス教室	天神島
5年1月14日	ハートリンク放課後等デイサービス磯子	本館
5年1月20日	田浦保育園	本館
5年2月12日	キッズわんデイサービス並木	本館
5年2月16日	陸上自衛隊通信学校	本館
5年2月21日	LaLaLand 逗子	本館
5年2月23日	プレップサポートセンター金沢文庫	本館
5年2月26日	おいらく山岳会	馬堀
5年2月28日	横須賀若葉幼稚園	本館
5年3月15日	津久井幼稚園	本館
5年3月21日	サイプレス	本館
5年3月21日	湘南みらい(株)スタジオみらい	本館
5年3月26日	葛飾区郷土と天文の博物館	本館
5年3月28日	ぎんのすず保育園	本館
5年3月29日	LaLaLand 逗子	本館
5年3月31日	中央学童クラブ	本館

計 64 件, 85 回

イ 調査・研究等利用

日付	団体名	施設
年間	横須賀植物会	本館
年間	神奈川県植物誌調査会	本館
年間	三浦半島昆虫研究会	本館
4月9日, 5月14日, 6月11日, 7月9日	考古会	本館
年間	相模湾海洋生物研究会	本館
4月27日	東京海洋大学藻類学研究室 大学院生 1 人	天神島
5月19日, 7月21日, 9月15日, 11月17日, 5年1月18日, 5年3月16日	三浦半島活断層調査会	本館
5月23日	神奈川県立横須賀高等学校 2 学年 (プリンキピア II)	天神島
6月10日, 6月17日, 8月5日, 10月28日, 12月16日, 5年3月3日	神奈川県立横須賀高等学校 1 学年 (プリンキピア I)	本館
6月20日, 12月19日	広尾地学研究会	本館

※ 馬堀：馬堀自然教育園， 天神島：天神島臨海自然教育園， ヴェルニー：ヴェルニー記念館

計 10 件

(2) 開館園日数・入館園者数 (人)

月	本館		馬堀自然教育園		天神島臨海自然教育園		ヴェルニー記念館		合計 入館園者数
	日数	入館者	日数	入園者	日数	入園者	日数	入館者	
4	26	4,951	26	189	26	4,619	26	5,657	15,416
5	26	5,631	26	250	26	6,800	26	12,332	25,013
6	23	4,893	26	405	26	3,936	26	5,602	14,836
7	26	5,158	27	215	27	5,622	27	4,035	15,030
8	26	6,818	26	172	26	6,016	26	6,929	19,935
9	26	4,239	26	119	26	3,697	26	4,727	12,782
10	26	4,818	26	111	26	3,899	26	7,617	16,445
11	26	4,746	26	92	26	2,983	26	6,173	13,994
12	24	3,469	24	120	24	1,800	24	4,299	9,688
1	24	5,198	24	84	24	2,411	24	4,563	12,256
2	24	4,577	24	156	24	2,358	24	5,014	12,105
3	27	5,615	27	103	27	2,881	27	6,087	14,686
計	304	60,113	308	2,016	308	47,022	308	73,035	182,186

※臨時休館園

本館

6月28日～7月1日：館内収蔵資料の燻蒸作業のため

(3) 人 事

- 4月1日 転入 館長 古谷久乃 (教育総務部教育政策課から)
- 4月1日 転入 峯山美城 (学校教育部保健体育課から)
- 5年3月31日 転出 課長 柳井栄美 (田浦行政センターへ)
- 5年3月31日 転出 金満嘉政 (教育総務部生涯学習課へ)
- 5年3月31日 転出 北原一郎 (教育総務部学校管理課へ)

(4) 予 算

費 目	予算額 (千円)
資料収集調査研究費	1,230
資料分類整理保存費	10,413
展示教育普及費	6,659
博物館本館費	65,990
自然教育園費	23,030
ヴェルニー記念館費	9,242
計	116,564

(5) 宮繕工事**ア 本館展示室内照明改修工事**

本館館内の展示室の照明の一部をLED照明に変更した。

イ 天神島ビジターセンター空調更新工事

天神島ビジターセンターの空調の更新を行った。

(6) 消防訓練・避難訓練**ア 本館**

5年1月26日に文化財防火デーにあわせ消防訓練を行った。(担当：北原)

イ 天神島臨海自然教育園

6月23日に東南海地震による津波の発生を想定した避難訓練を実施した。(担当：中村)

(7) ホームページ・メールマガジン・SNS**ア ホームページ**

博物館ホームページを32回更新した。閲覧数(セッション数)は151,099回。(担当：柴田)

イ メールマガジン

メールマガジンを12回配信した。メールマガジンの登録数818人、配信数579人(5年3月31日)。各メールマガジンには「学芸員自然と歴史のたより」を掲載した。タイトルと執筆者は以下のとおり。(担当：柴田)

- 4月5日号 辻井善彌先生を偲んで 瀬川
- 4月28日号 ツバメの巣づくり 萩原
- 5月31日号 福徳岡ノ場の軽石 柴田
- 6月26日号 古文書の取り扱いと「くずし字体験コー

ナー」の設置 藤井

- 8月2日号 黒潮にのってたどり着いた植物たち 山本
- 9月14日号 『カマクラ』の名をつけたキクイムシ 内船
- 11月2日号 失われたのは… 瀬川
- 12月2日号 黒潮の大蛇行と横須賀の海 萩原
- 12月28日号 3Dスキャンで見る横須賀近代化遺産 菊地
- 5年1月31日号 展示で見る生命の歴史 柴田
- 5年2月28日号 村を訪れる「浪人」たち 藤井

ウ ツイッター

192件投稿した。フォロワー数1,825人(令和5年

3月31日)(担当:峯山)

エ インスタグラム

135件投稿した。フォロワー数372人(令和5年3月31日)(担当:峯山)

オ 横須賀市博ムービーチャンネル(YouTube)

動画投稿サイトYouTubeを活用し、三浦半島の自然や歴史、展示解説などの動画を紹介した。動画40件(新着動画1件)、視聴回数合計13,434回、総再生時間323.7時間(令和4年度)。(担当:柴田)

職員名簿（令和4年度）

館長 古谷 久乃
課長 柳井 栄美

（管理運営係）

係長 金満 嘉政
主任 横山 靖志
主任 峯山 美城
担当者 北原 一郎

（自然部門）

学芸員・主査 萩原 清司（海洋生物学）
学芸員・主任 柴田 健一郎（地球科学）
学芸員・主任 内船 俊樹（昆虫学）
学芸員・主任 山本 薫（植物学）

（人文部門）

学芸員・主査 菊地 勝広（建築史学）
学芸員 瀬川 涉（民俗学）
学芸員 藤井 明広（文献史学）
併任 谷合 伸介
（図書館郷土資料室）
併任 磯口 健太郎
（生涯学習課）

（天神島臨海自然教育園）

会計年度任用職員 中村 薫
会計年度任用職員 小長谷 美沙

《表紙写真解説》

天神島臨海自然教育園に漂着したオウムガイの貝殻

オウムガイ *Nautilus pompilius* は「生きた化石」として知られる軟体動物である。イカやタコと同じ頭足類（綱）だが、軟体部の大半は貝殻に包まれ、90本近くの触手を有する点で他の頭足類とは明らかに異なる。東南アジア～オーストラリア北部の熱帯サンゴ礁域周辺の深海に生息し、稀に海流の影響によって日本南部の沿岸にも運ばれる。写真の貝殻は2009年8月9日に横須賀市佐島の天神島臨海自然教育園に漂着した殻径約18cmの個体（YCM-H8976）で、黒潮によって横須賀に運ばれたものと考えられ、特別展示「黒潮のめぐみ」で展示公開された。（萩原）

編集担当：萩原清司

横須賀市博物館報 第70号

2023年12月 発行

編集・発行 横須賀市自然・人文博物館
〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95
電話 046-824-3688 Fax. 046-824-3658
e-mail m-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp
<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>

